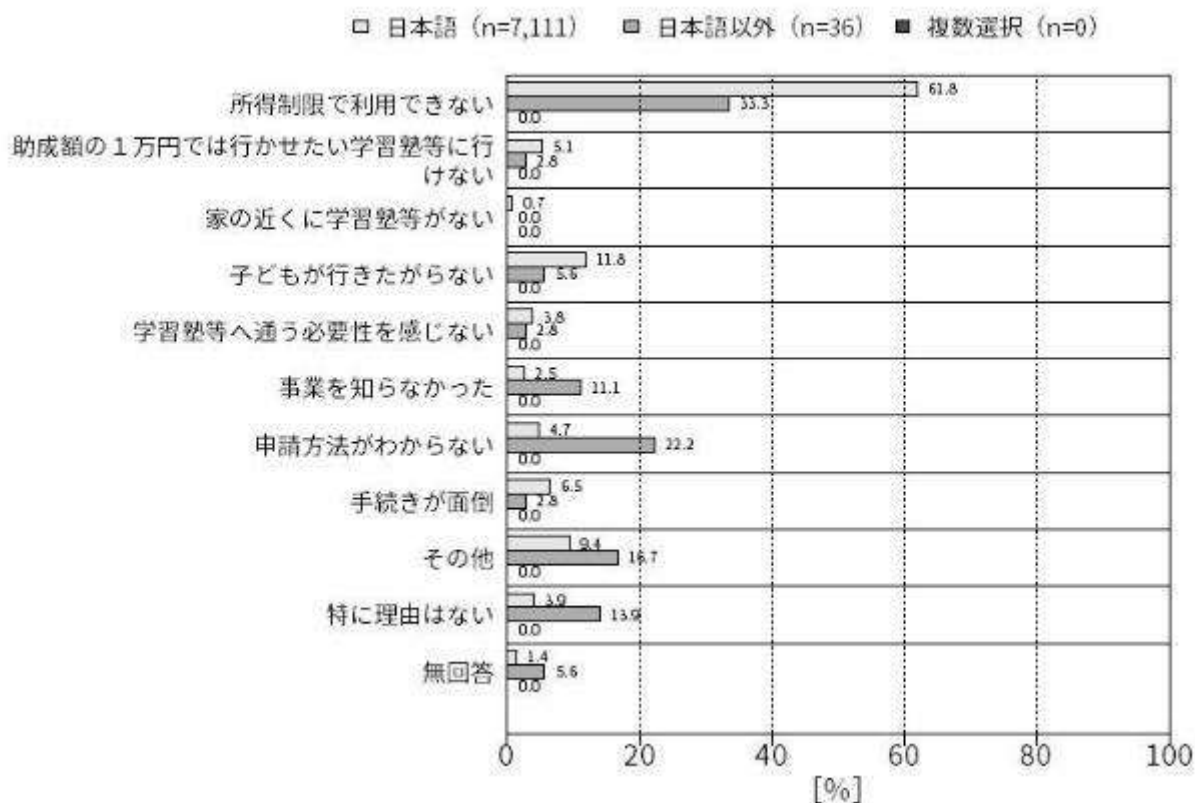


日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由
 (保護者票 問2 × 保護者票 問20)

<大阪市24区>



<大阪市西区>

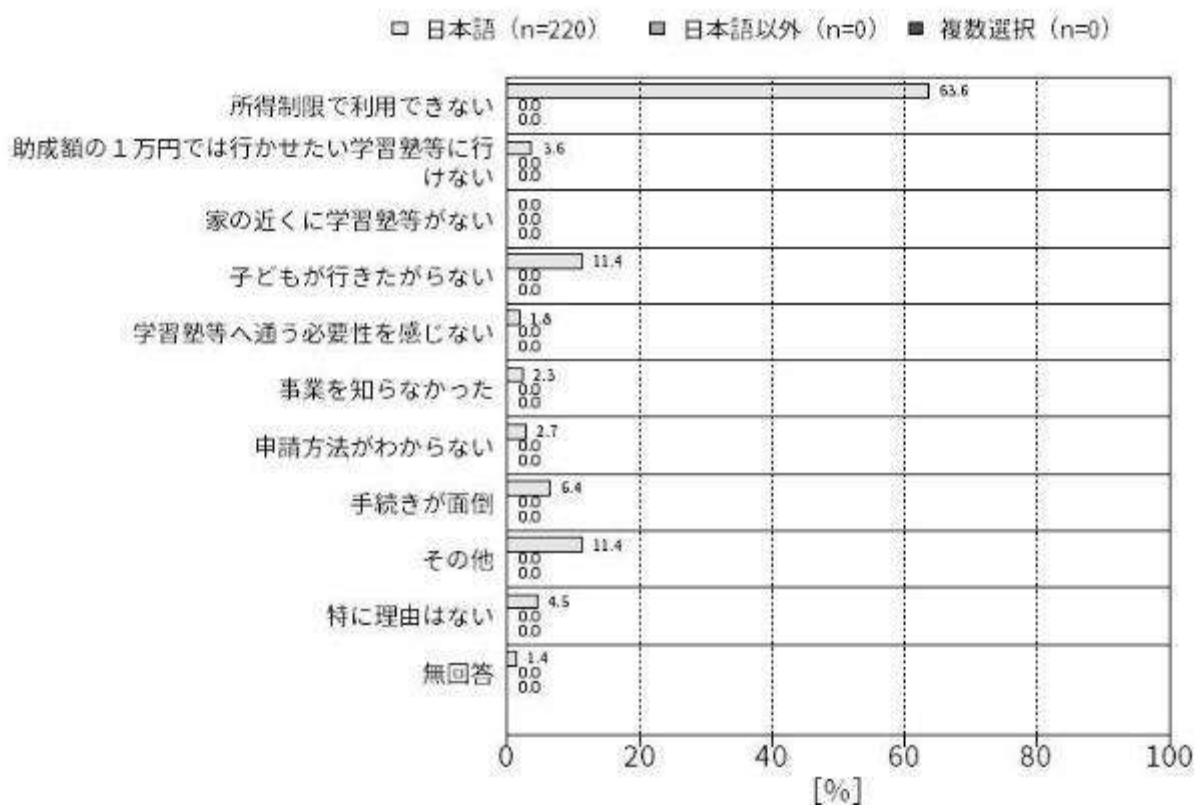


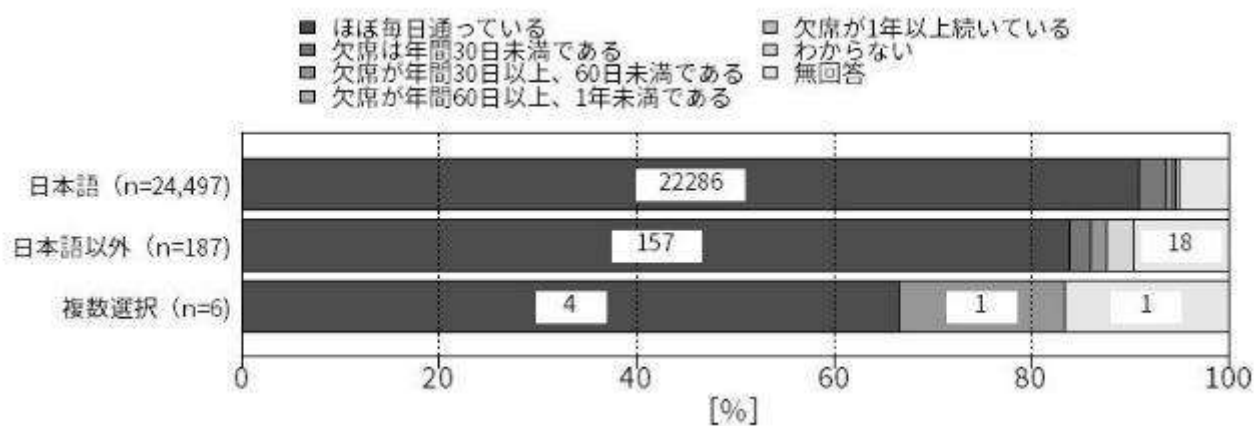
図 280. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由

日本語を母語としない人数が 0 名であり、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

(保護者票 問2 × 保護者票 問21)

<大阪市24区>



<大阪市西区>

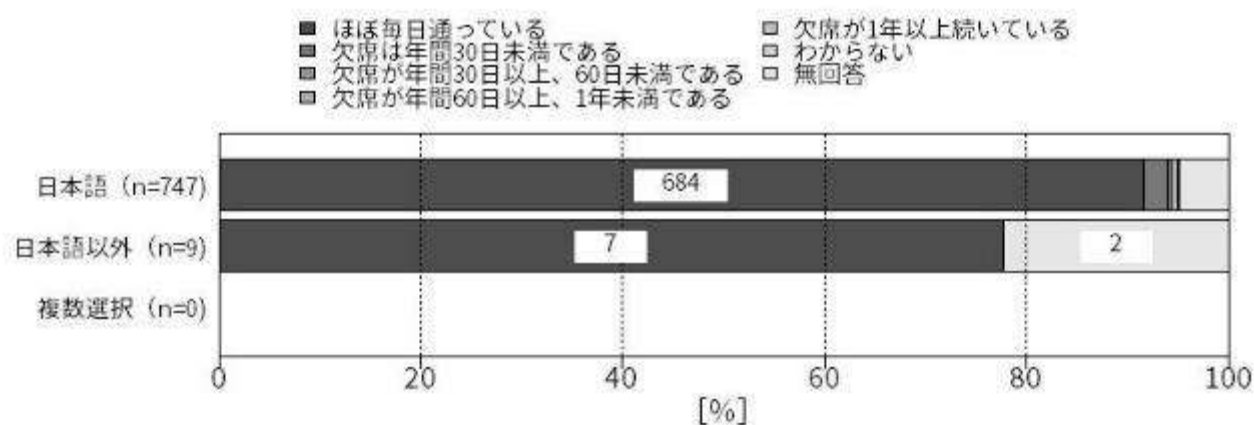


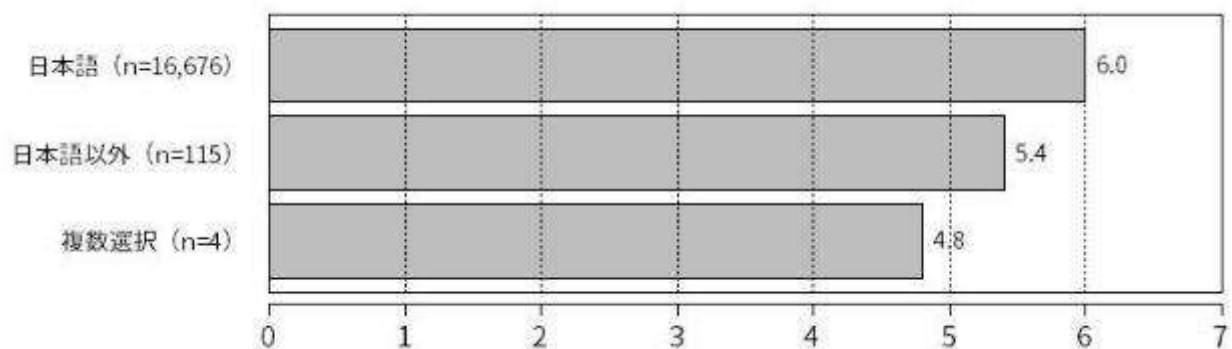
図 281. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

日本語を母語としない人数9名であり、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点
 (保護者票 問 2 × 保護者票 問 23①～⑦)

※「支えてくれる人得点」については図 198 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市西区>

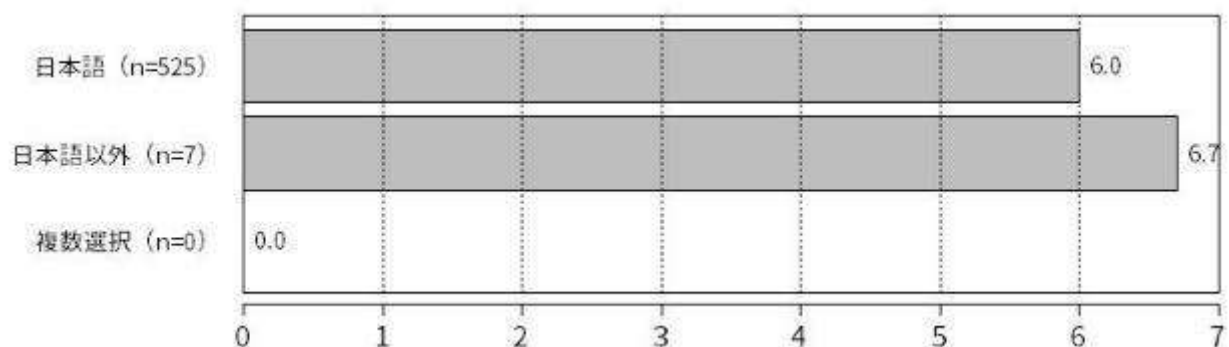


図 282. 日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点

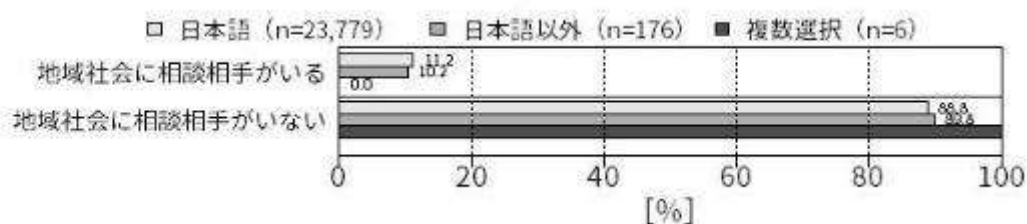
日本語を母語としない人数が 7 名であり、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

(保護者票 問2 × 保護者票 問24)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問に対し、「学校の先生やスクールカウンセラー」「子育て講座（小・中学生を持つ保護者を対象）等を担当するリーダーや職員等」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体」「民間のカウンセラー・電話相談」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪市24区>



<大阪市西区>

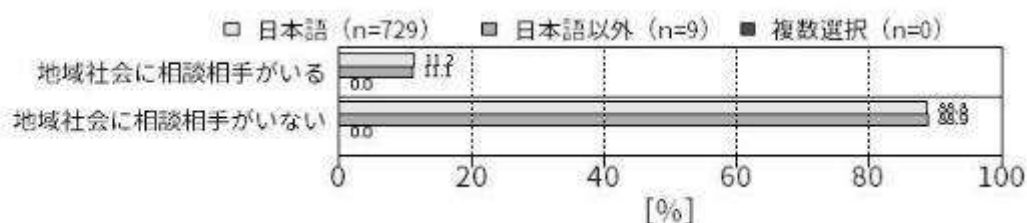


図 283. 日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

日本語を母語としない人数が9名であり、傾向を述べることはできない。

<家庭生活・学習に関する考察>

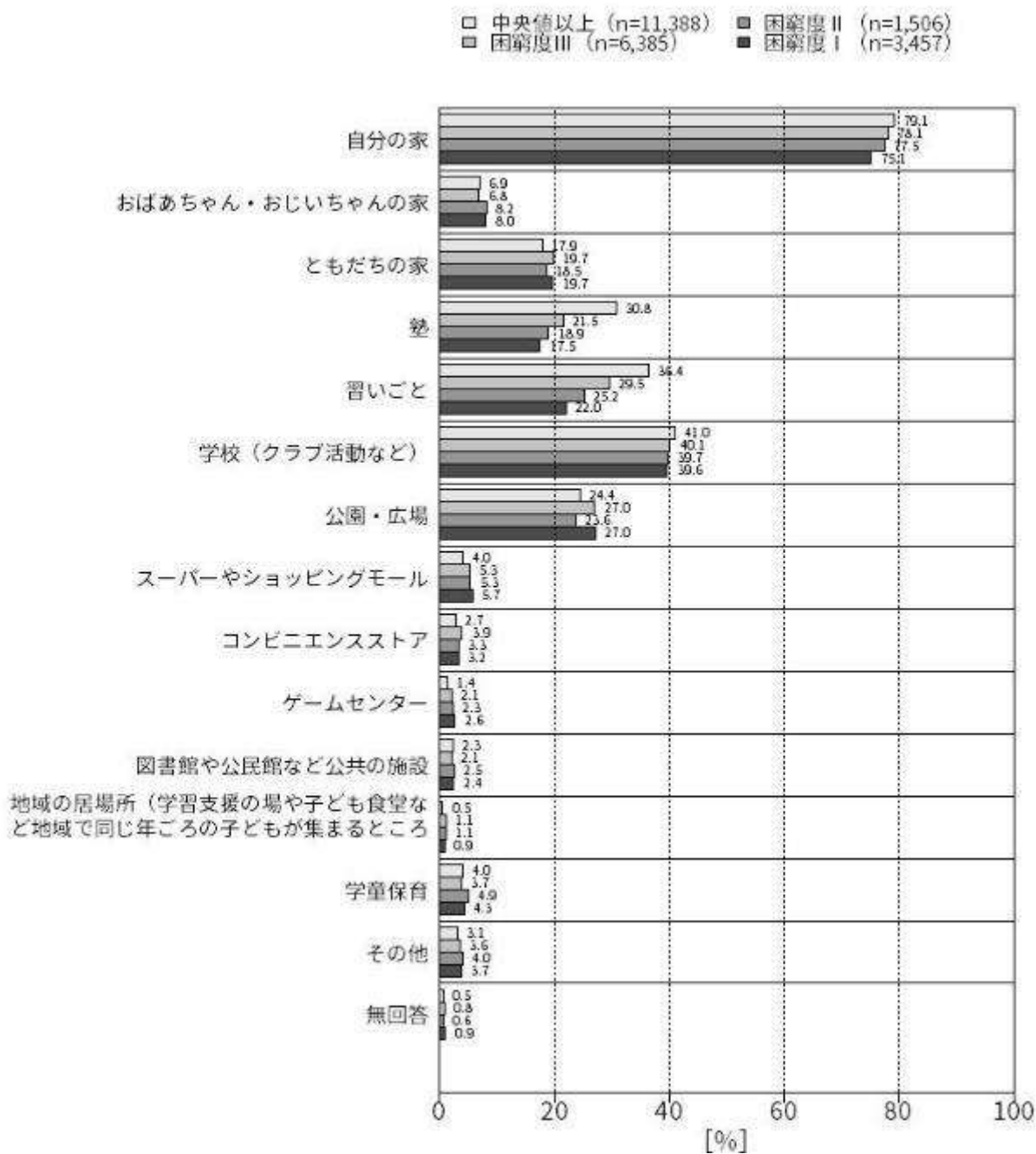
家庭生活・学習について、困窮度の視点から結果を述べる。まず、おうちの大人との関わりを見ると、困窮度が高くなるにつれて、朝食を一緒に摂ることが「まったくない」と回答する割合が増加する。宿題をみてもらう、一緒に文化活動をするに関しても「まったくない」と回答する割合は増加傾向を示した。次に子どもの学習については、困窮度が高まるにつれて、1日当たりの勉強時間に関し「まったくしない」と回答する子どもの割合は増加し（中央値以上群では2.6%、困窮度Ⅰ群では13.3%）、それに関連して学校の勉強について「よくわかる」と回答する子どもの割合が減少する（中央値以上群では34.9%、困窮度Ⅰ群では16.7%）。授業以外の読書時間は、困窮度が高まるにつれて「まったくない」と回答した割合が増える傾向が伺えた。また、生活習慣との関連で勉強と読書の習慣を見ると、起床時間が決まっていない子ども、朝食を摂るのが週5回以下の子どもにおいては、勉強・読書ともに「まったくしない」・「30分より少ない」回答の割合が高く、特に朝食を摂るのが週5回以下の子どもにおいては、授業以外の勉強時間は「まったくしない」と回答した割合は14.8%と高かった（毎日またはほとんど毎日群は4.8%）。困窮度別に勉強時間と学習理解度の関連を見ると、同じ勉強時間であっても困窮度が高くなると学習理解度が低くなる傾向が示された。

子どもの遅刻状況に関し困窮度群において、困窮度が高まると「週に1回程度」と答えた割合も高くなっている。週1回以上遅刻する子どもに着目すると、保護者と子どもの関わりにおいて、朝食を一緒に食べたり、宿題を見てもらったり、学校の話をしたり、一緒に遊んだりする割合が低く、文化活動をしたりすることが「まったくない」と回答する割合が遅刻はしない群に比べ高かった。更に「遅刻はしない」子どもを持つ保護者は「週1回以上遅刻する」子どもを持つ保護者に比べ、「とても信頼している」と回答する割合が高かった。

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後に過ごす場所（子ども票 問13）

<大阪市 24 区>



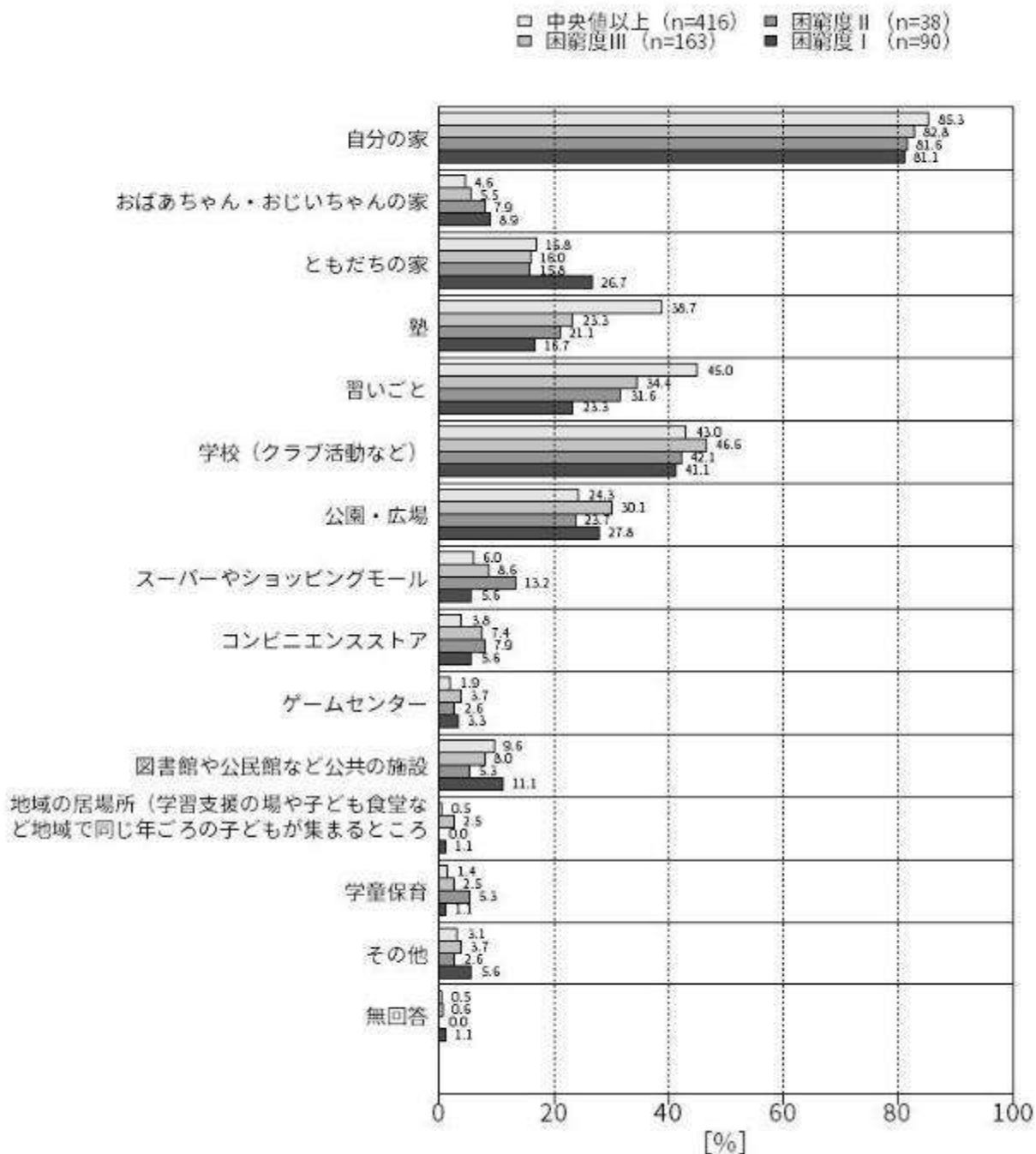
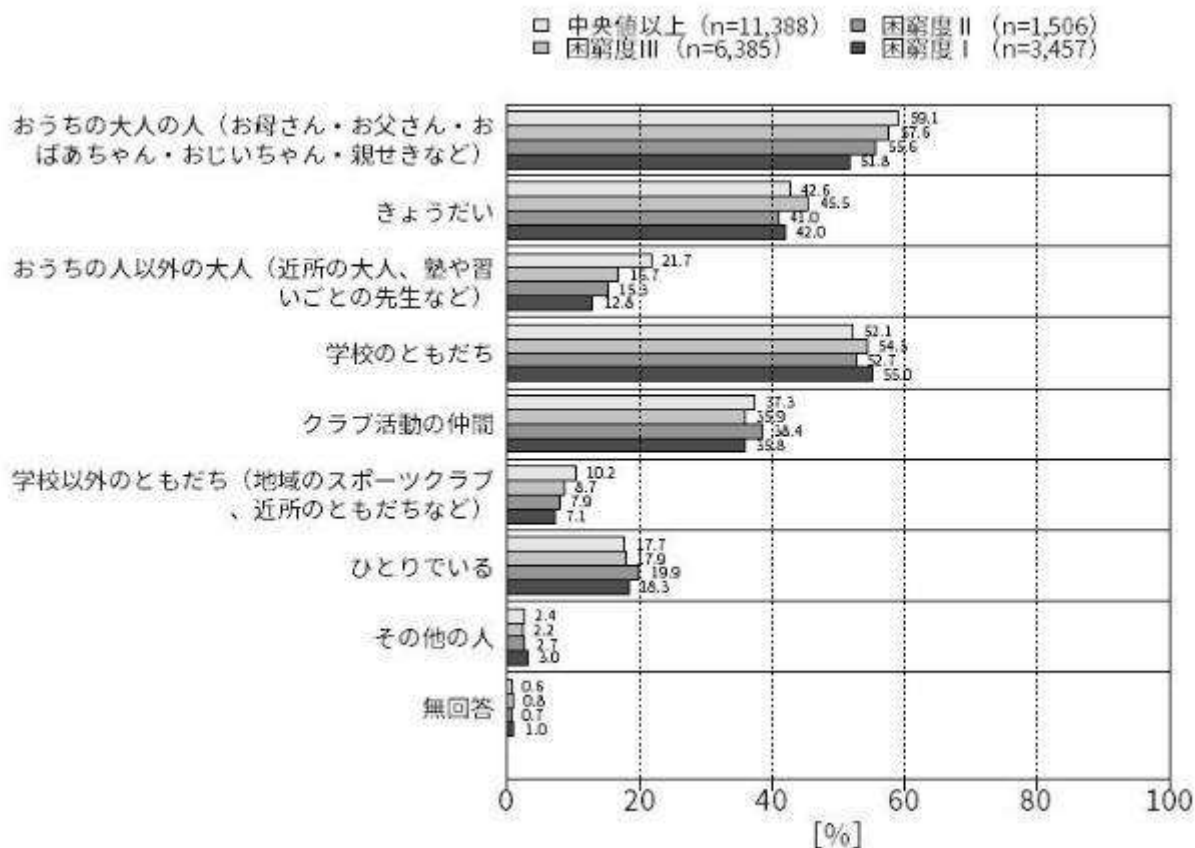


図 284. 困窮度別に見た、放課後に過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「地域の居場所 (学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まるところ)」1.1% (中央値以上群に対して、2.2 倍)、「おばあちゃん・おじいちゃんの家」8.9% (1.9 倍)、「その他」5.6% (1.8 倍)、となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また、中央値以上群では「塾」38.7% (困窮度Ⅰ群に対して、2.3 倍)、「学校 (クラブ活動など)」45% (1.9 倍)、「学童保育」1.4% (1.3 倍) が高かった。

困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人（子ども票 問 12）

<大阪市 24 区>



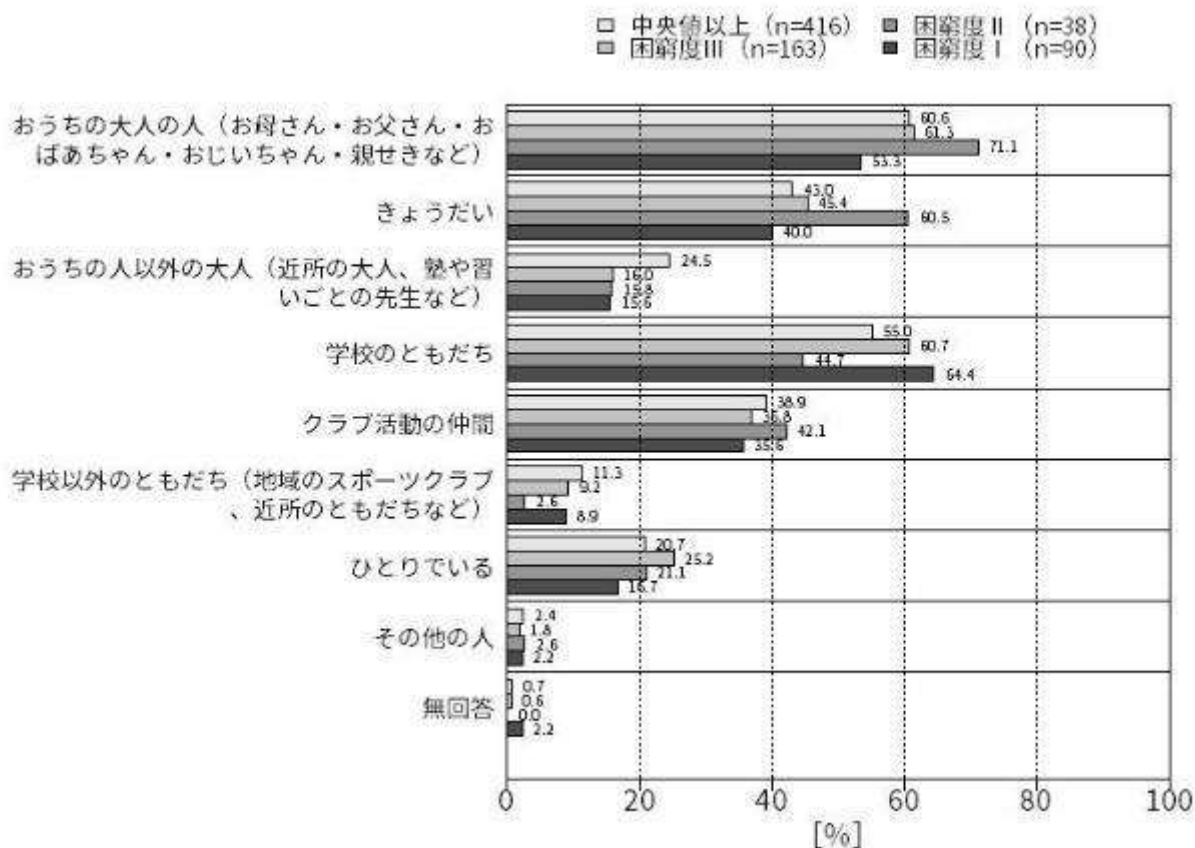
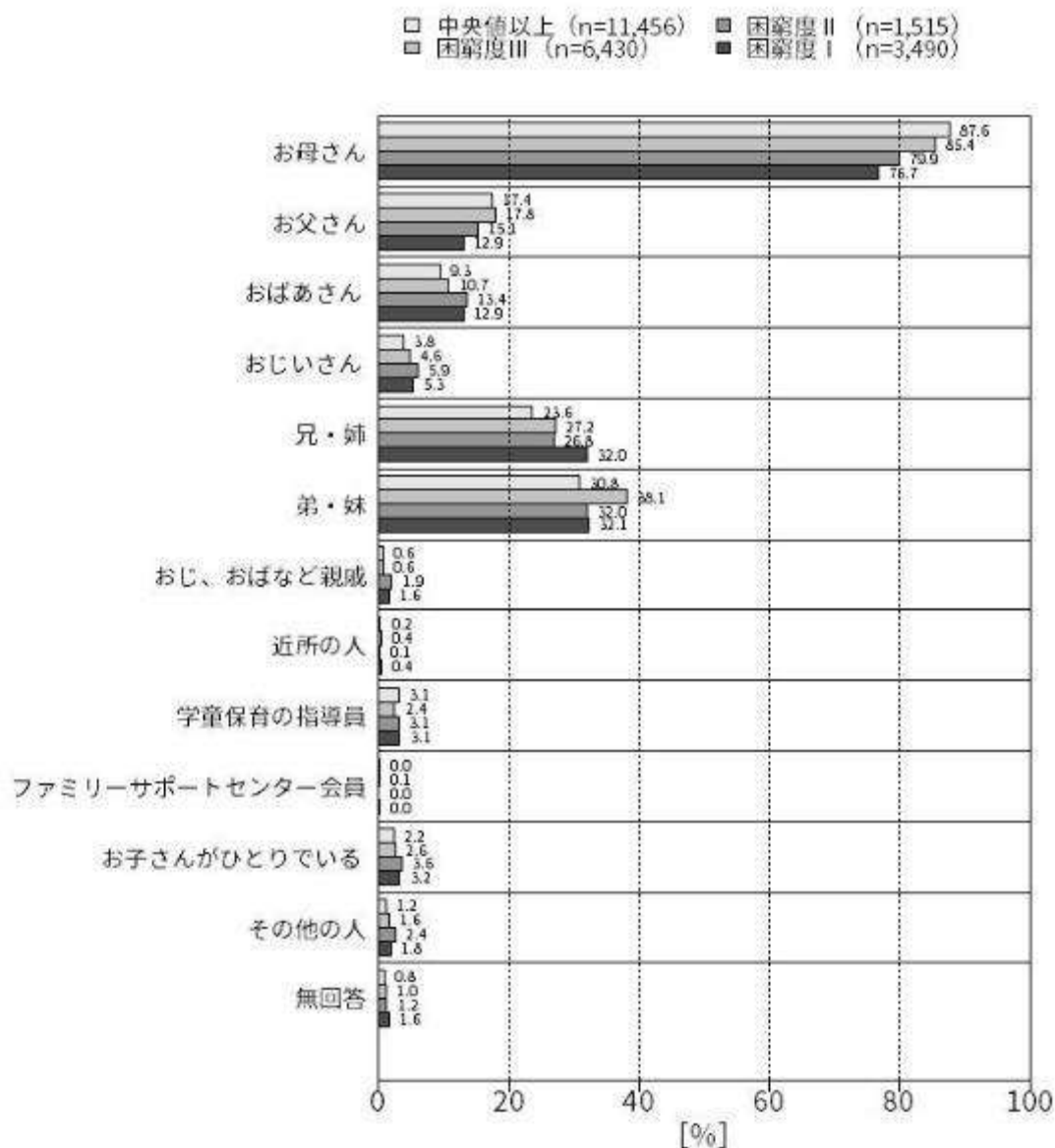


図 285. 困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、中央値以上群では「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」24.5%（困窮度Ⅰ群に対して、1.6 倍）が高かった。

困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人（保護者票 問 11）

<大阪市 24 区>



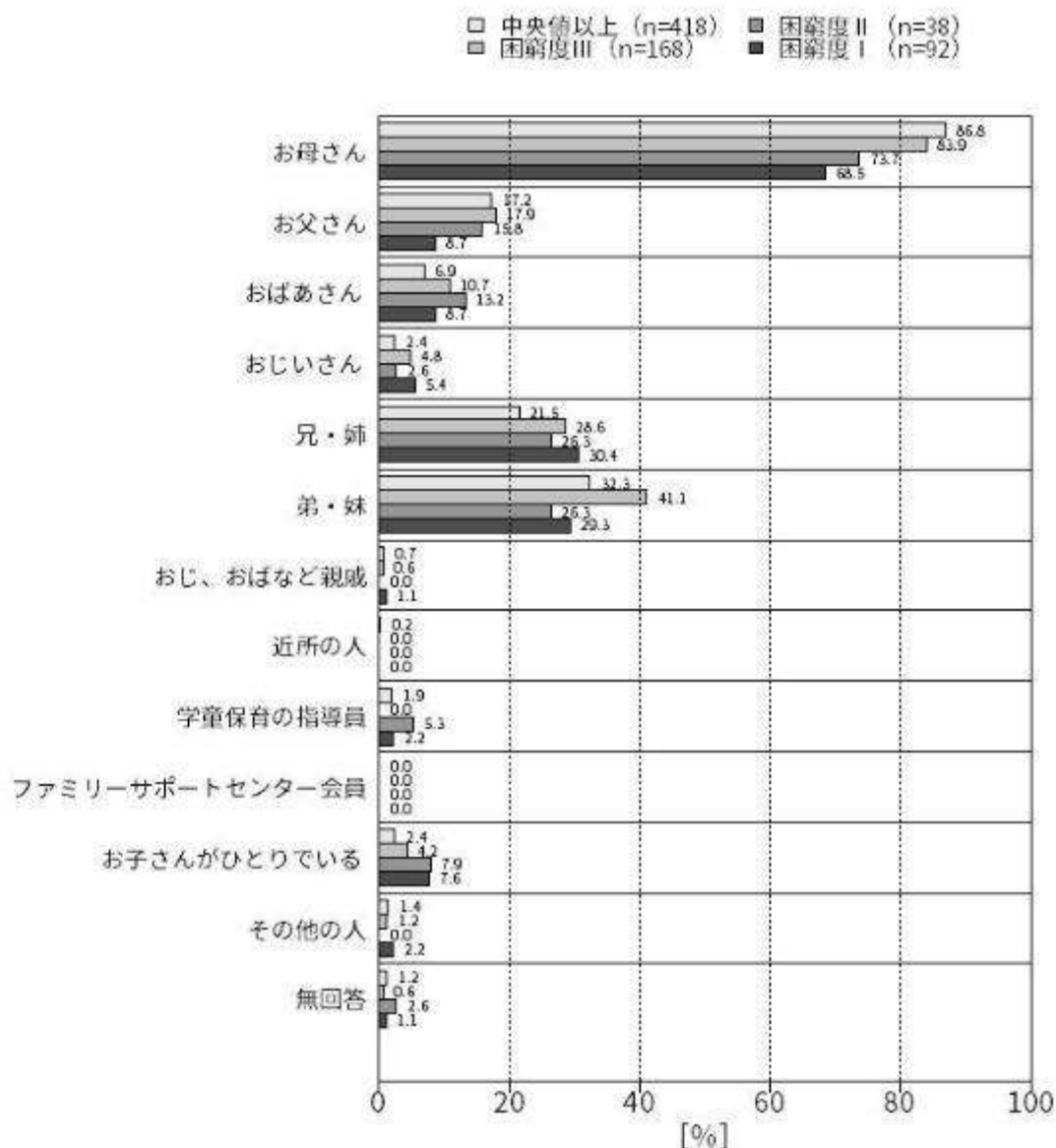
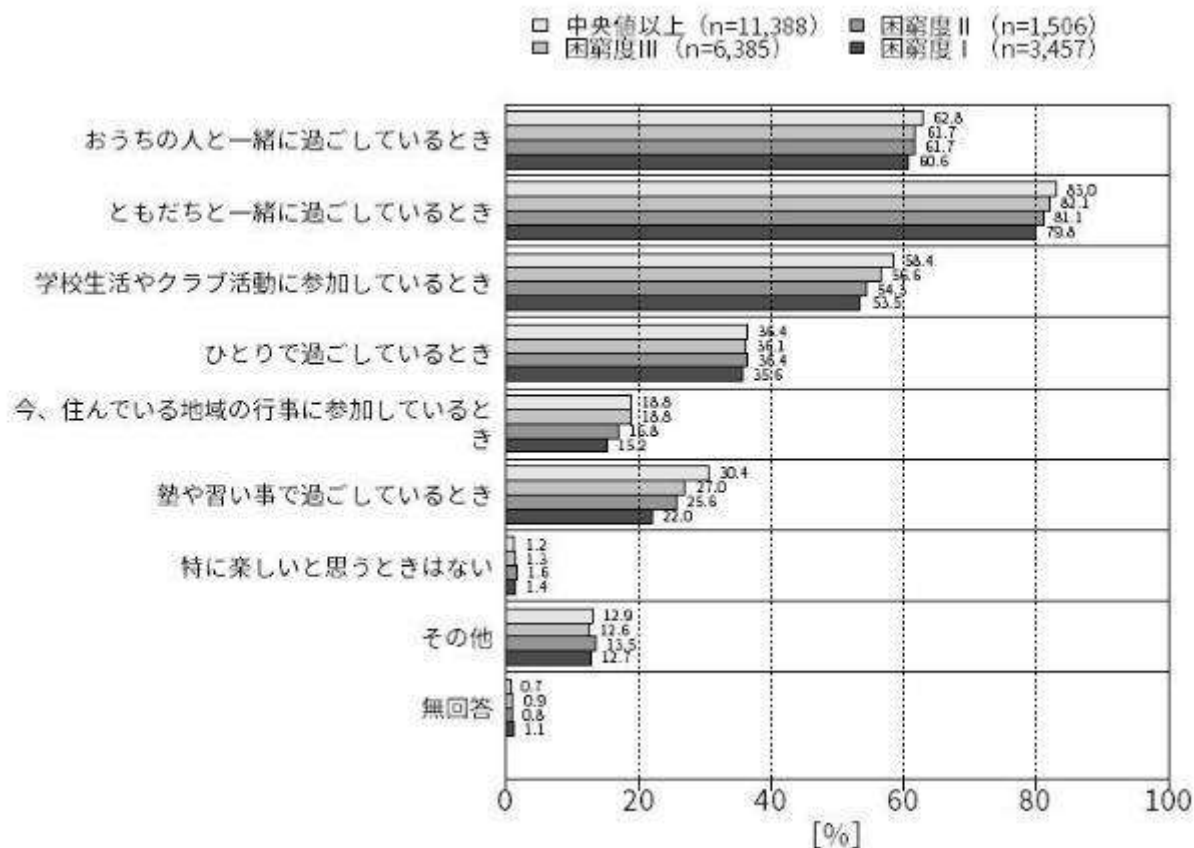


図 286. 困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

困窮度別に保護者が放課後に子どもと過ごす時間が長い人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「お子さんがひとりである」7.6%（中央値以上群に対して、3.2倍）、「おじいさん」5.4%（2.3倍）、「おじ、おばなど親戚」1.1%（1.6倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票 問 11）

<大阪市 24 区>



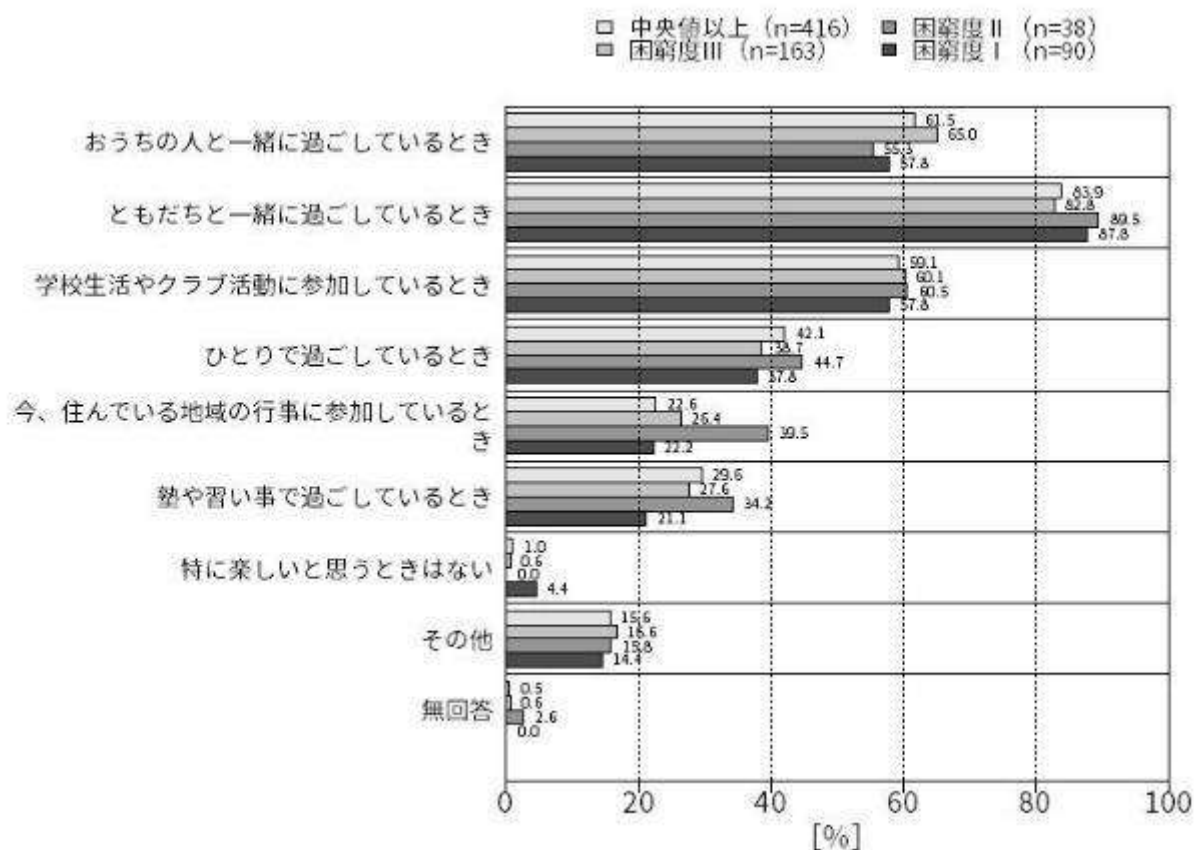
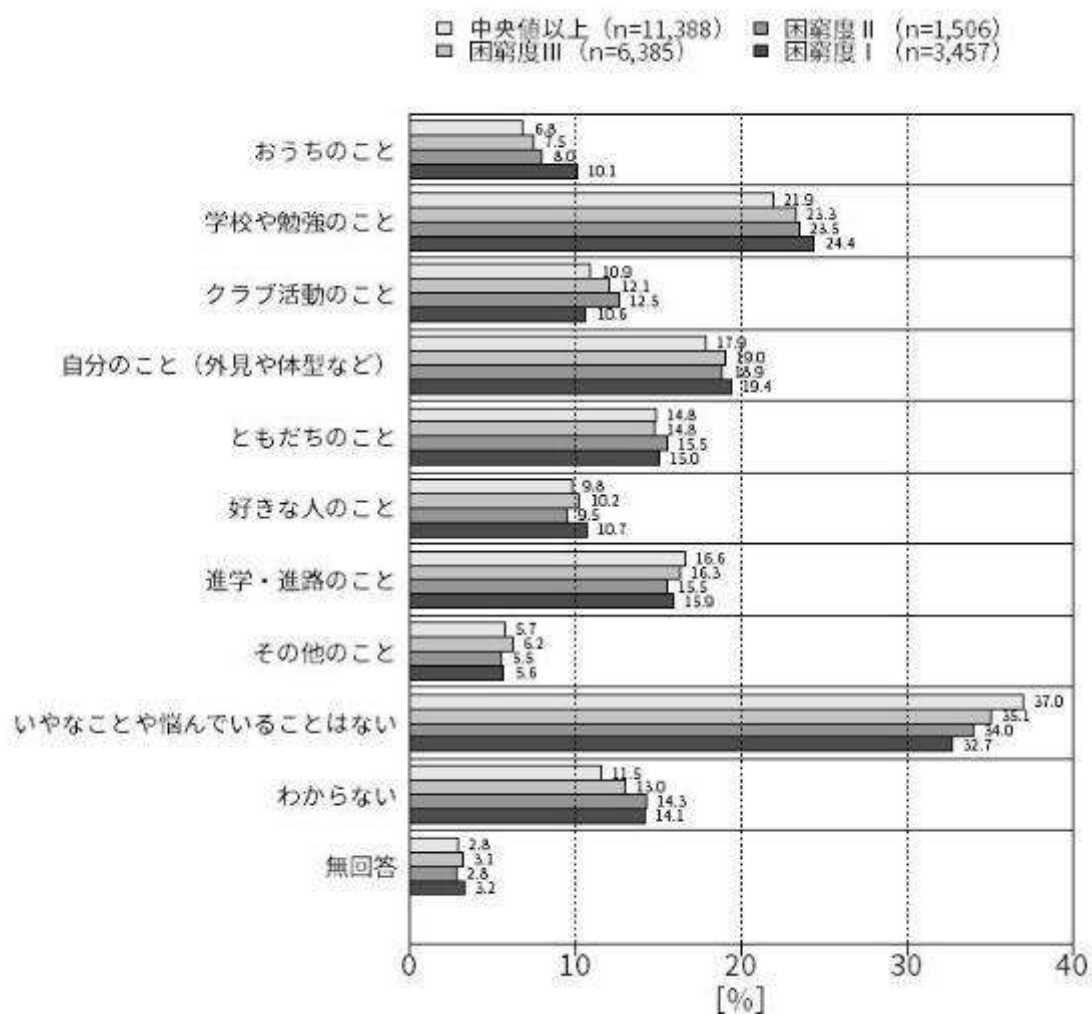


図 287. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「特に楽しいと思うときはない」4.4%（中央値以上群に対して、4.4倍）が高かった。

困窮度別に見た、悩んでいること（子ども票 問21）

<大阪市 24 区>



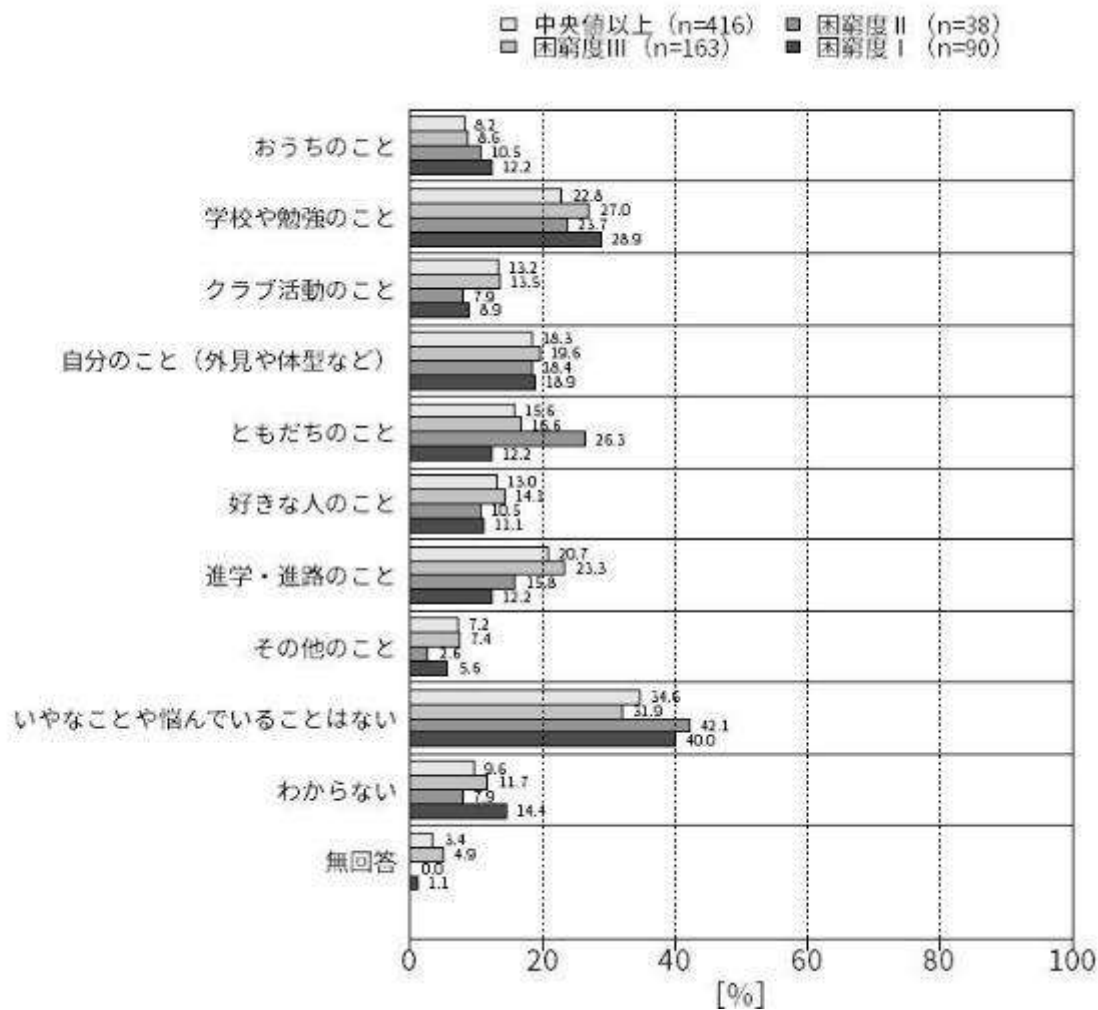
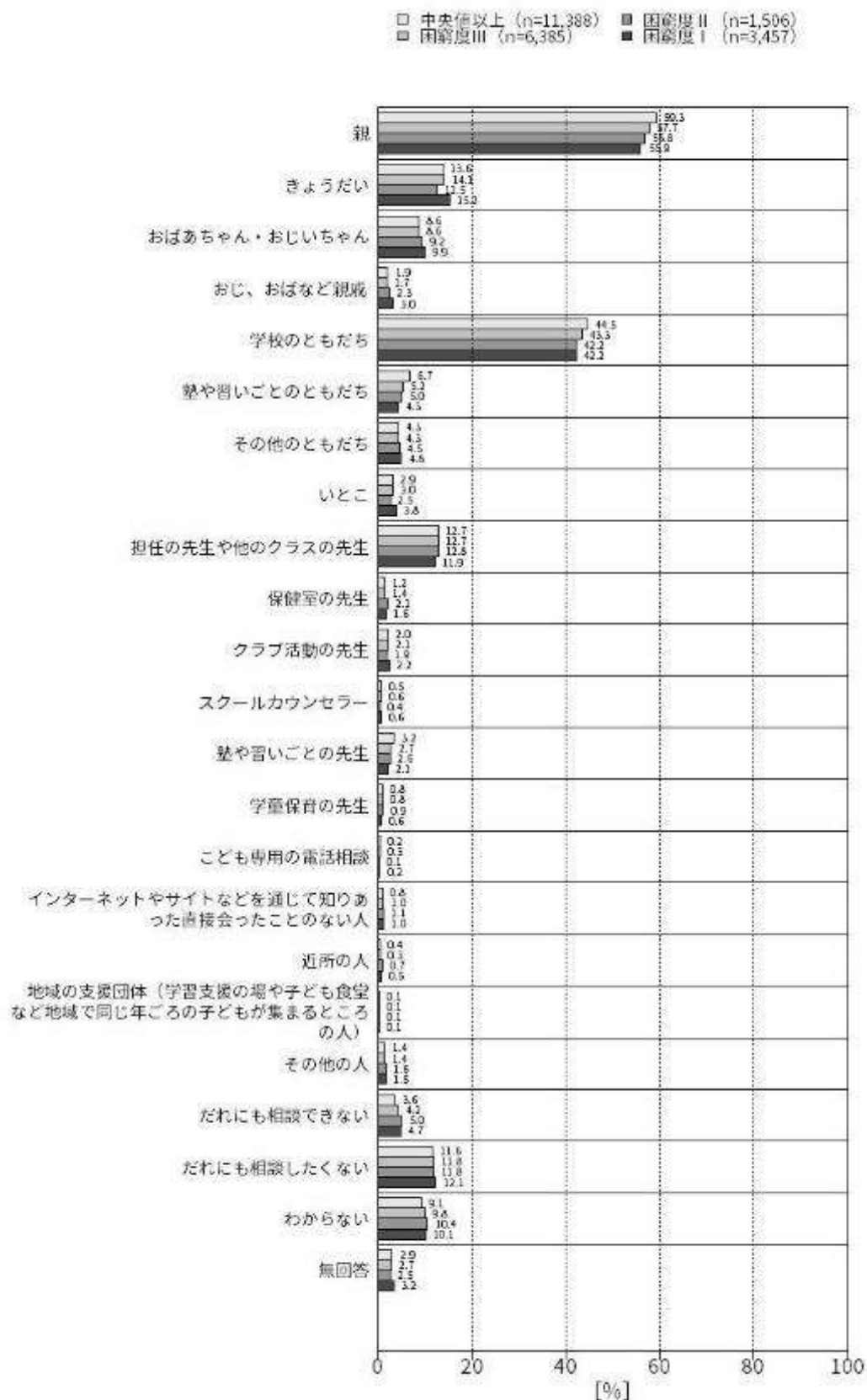


図 288. 困窮度別に見た、悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「わからない」14.4%（中央値以上群に対して、1.5倍）、「おうちのこと」12.2%（1.5倍）、「学校や勉強のこと」28.9%（1.3倍）が高く、中央値以上群では「進学・進路のこと」20.7%（困窮度Ⅰ群に対して、1.7倍）、「クラブ活動のこと」13.2%（1.5倍）、「その他のこと」7.2%（1.3倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票 問 22）

<大阪市 24 区>



<大阪市西区>

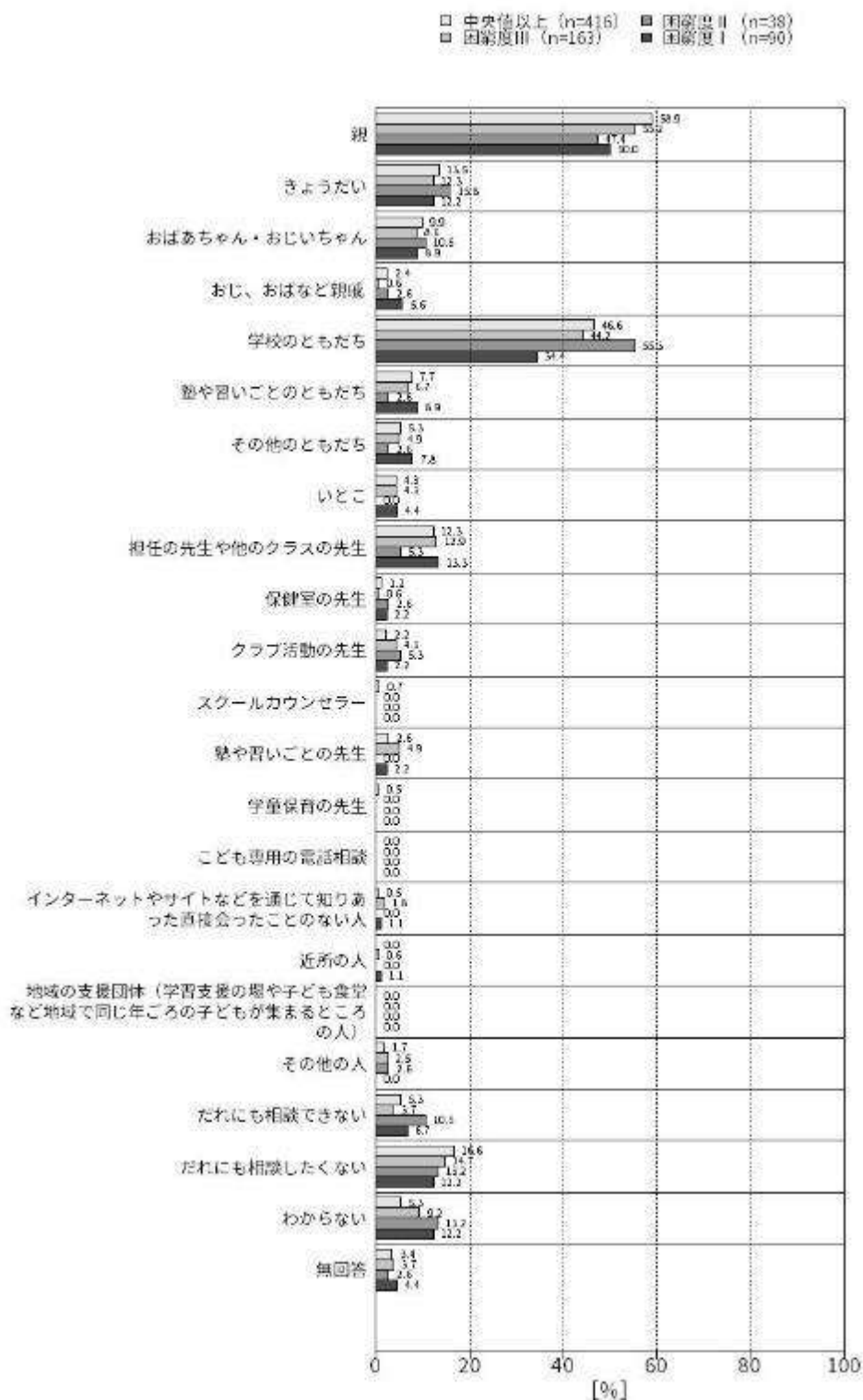
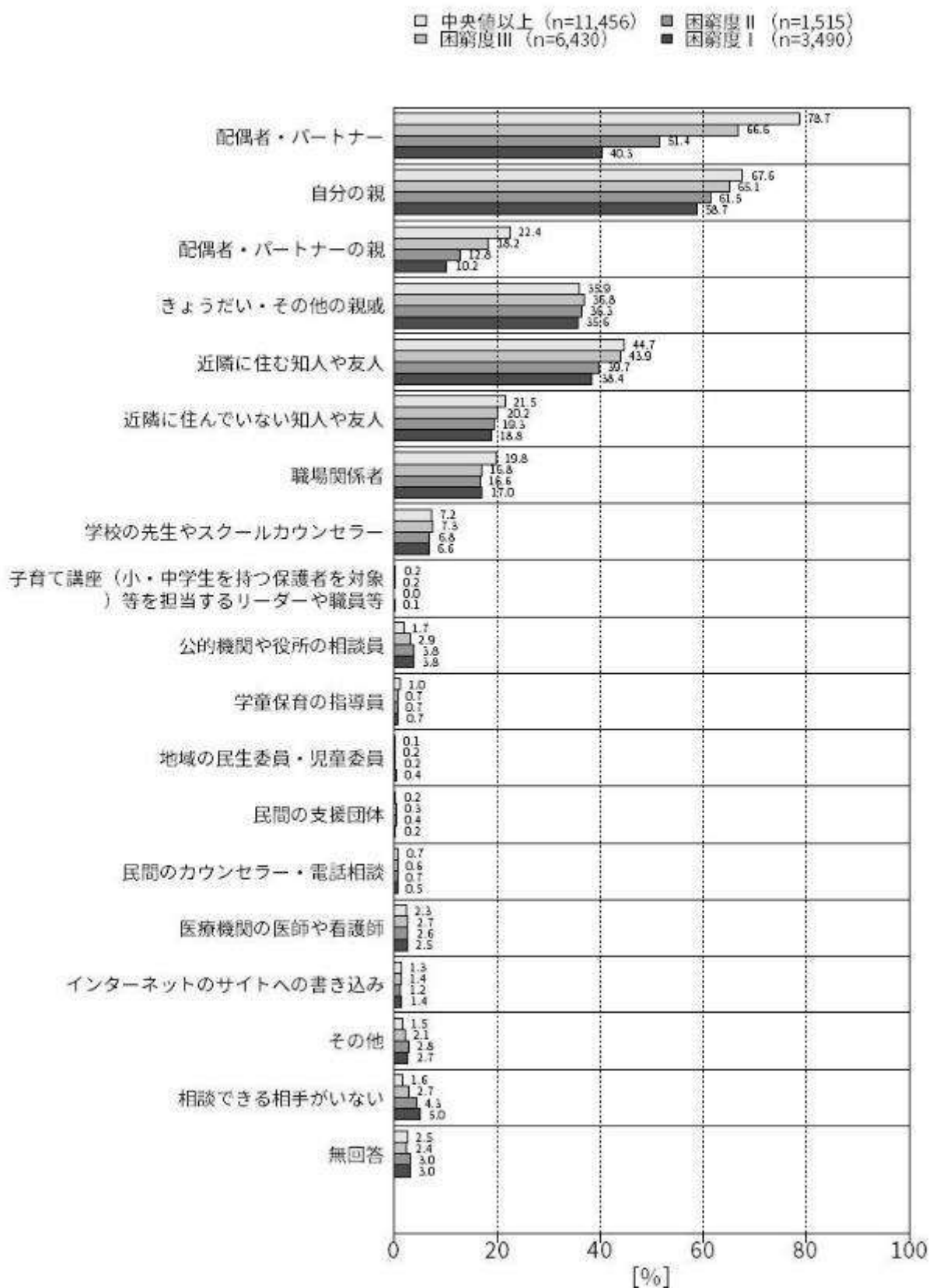


図 289. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「おじ、おばなど親戚」5.6%（中央値以上群に対して、2.3倍）、「わからない」12.2%（2.3倍）、「インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人」1.1%（2.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、困ったときの相談先（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



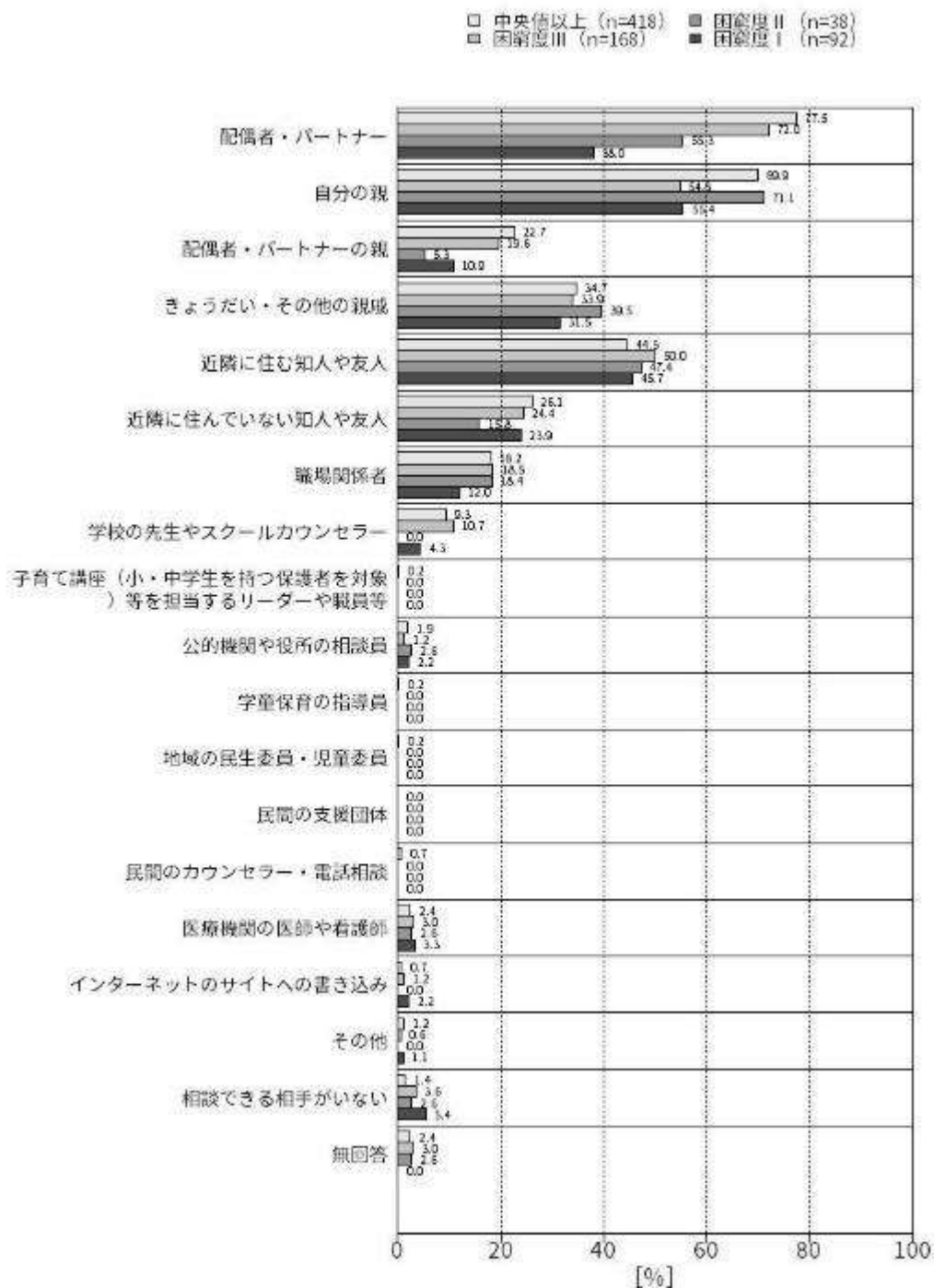
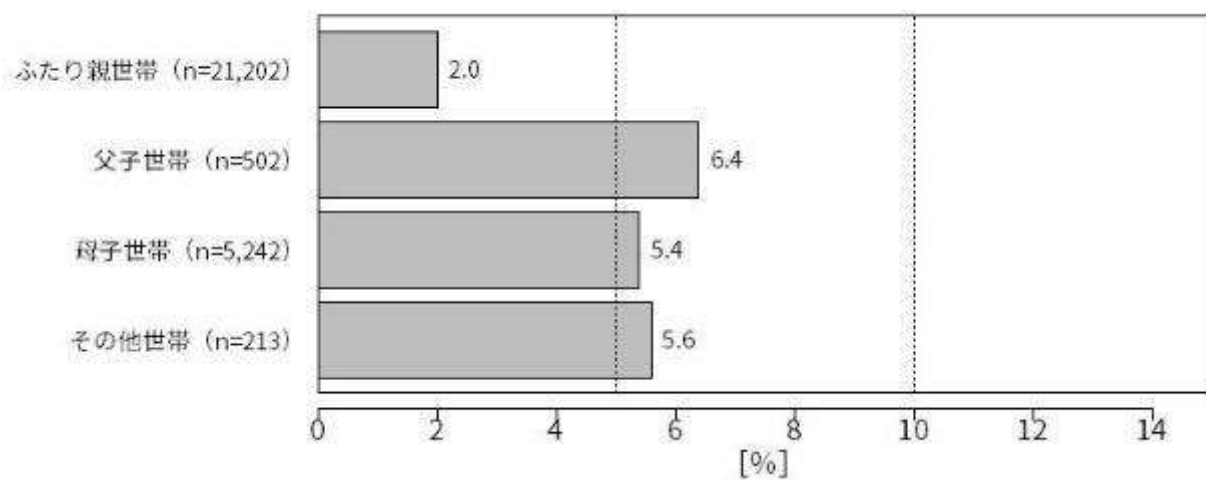


図 290. 困窮度別に見た、困ったときの相談先

困窮度別に保護者の困ったときの相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「相談できる相手がいない」5.4%（中央値以上群に対して、3.9倍）、「インターネットのサイトへの書き込み」2.2%（3.1倍）が高かった。さらに、中央値以上群では「配偶者・パートナー」と回答した割合が77.5%だったのに対して、困窮度Ⅰ群では38.0%だった。

世帯構成別に見た、相談相手のいない割合（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



<大阪市西区>

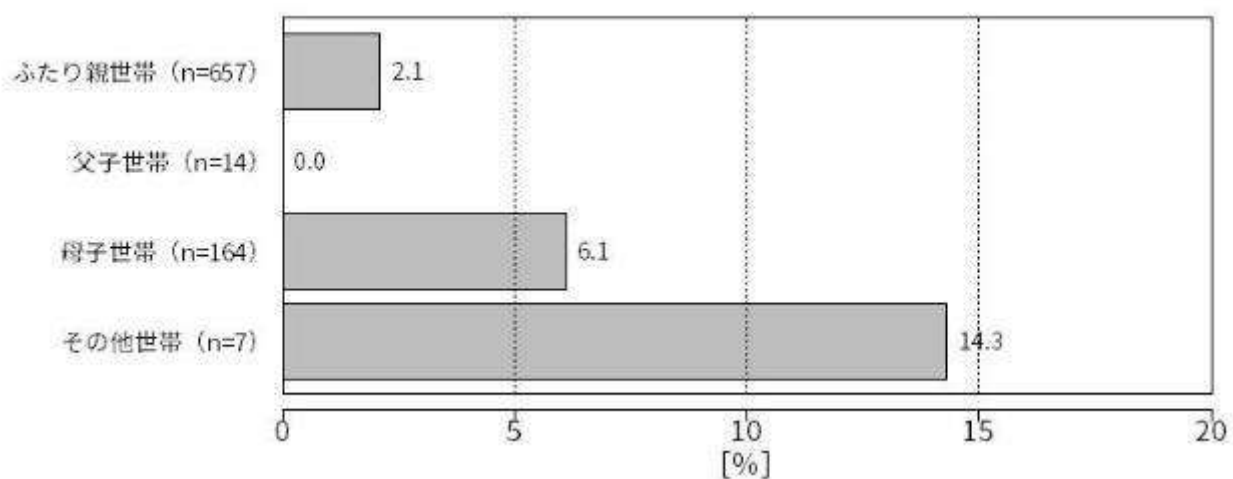


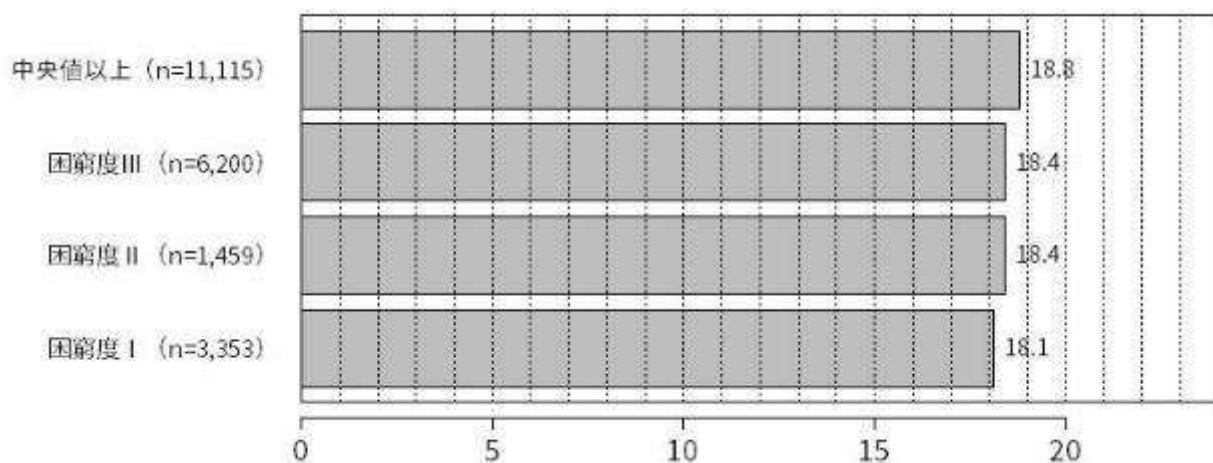
図 291. 世帯構成別に見た、相談相手のいない割合

世帯構成別に保護者の困ったときの相談先を見ると、「相談相手がいない」と回答した割合は、ふたり親世帯で 2.1%、母子世帯で 6.1%だった。

困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー（子ども票 問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市西区>

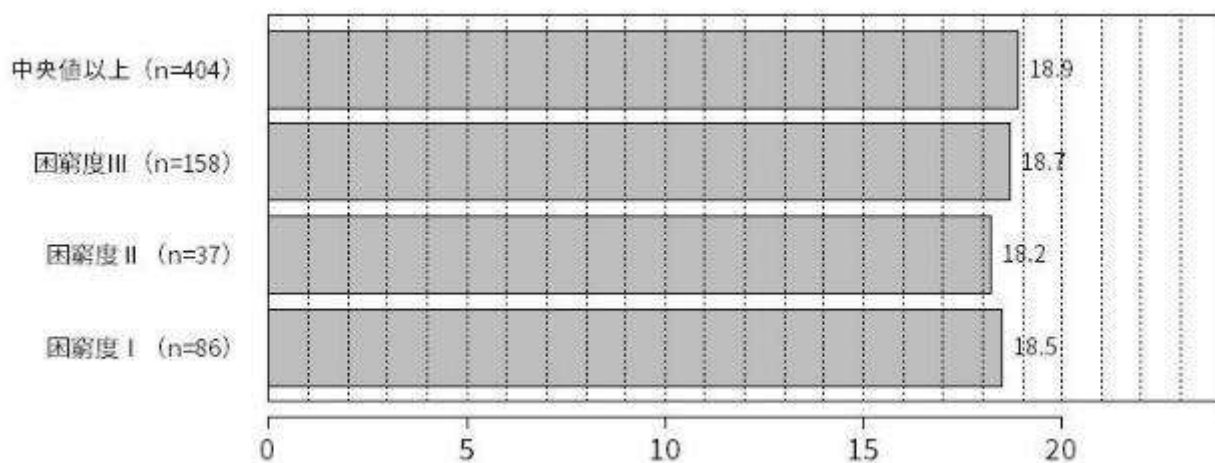


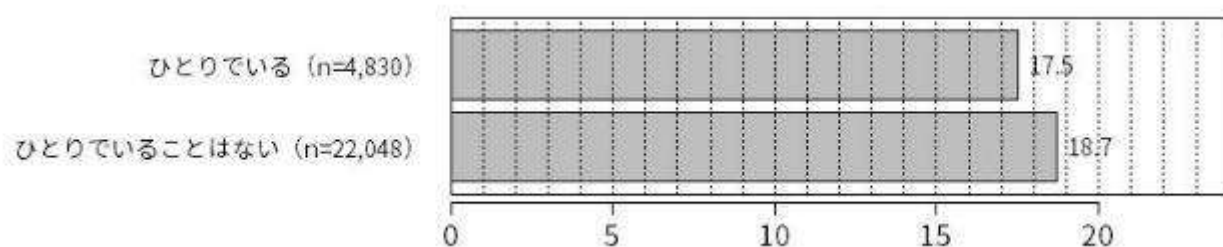
図 292. 困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均値は、中央値以上群で 18.9 点、困窮度Ⅲ群で 18.7 点、困窮度Ⅱ群で 18.2 点、困窮度Ⅰ群で 18.5 点である。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー
(子ども票 問 12 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市西区>

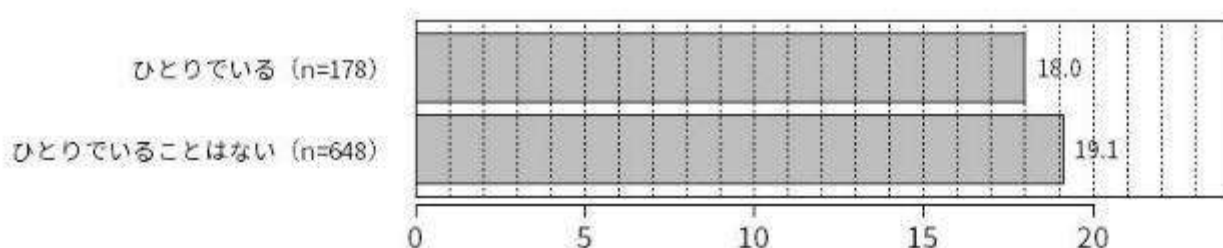


図 293. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方は 18.0 点、ひとりでいることはない子どもは 19.1 点であった。

困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 22 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※「あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、だれかに相談しますか。(だれに話しますか。)」に対し、以下のようにまとめた。

家族・親戚に相談：「親」「きょうだい」「おばあちゃん・おじいちゃん」「おじ・おばなど親戚」「いとこ」のうち1つ以上に回答した人

ともだちに相談：「学校のともだち」「塾や習い事のともだち」「その他のともだち」のうち1つ以上に回答した人

先生に相談する：「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」「クラブ活動や部活の先生」のうち1つ以上に回答した人

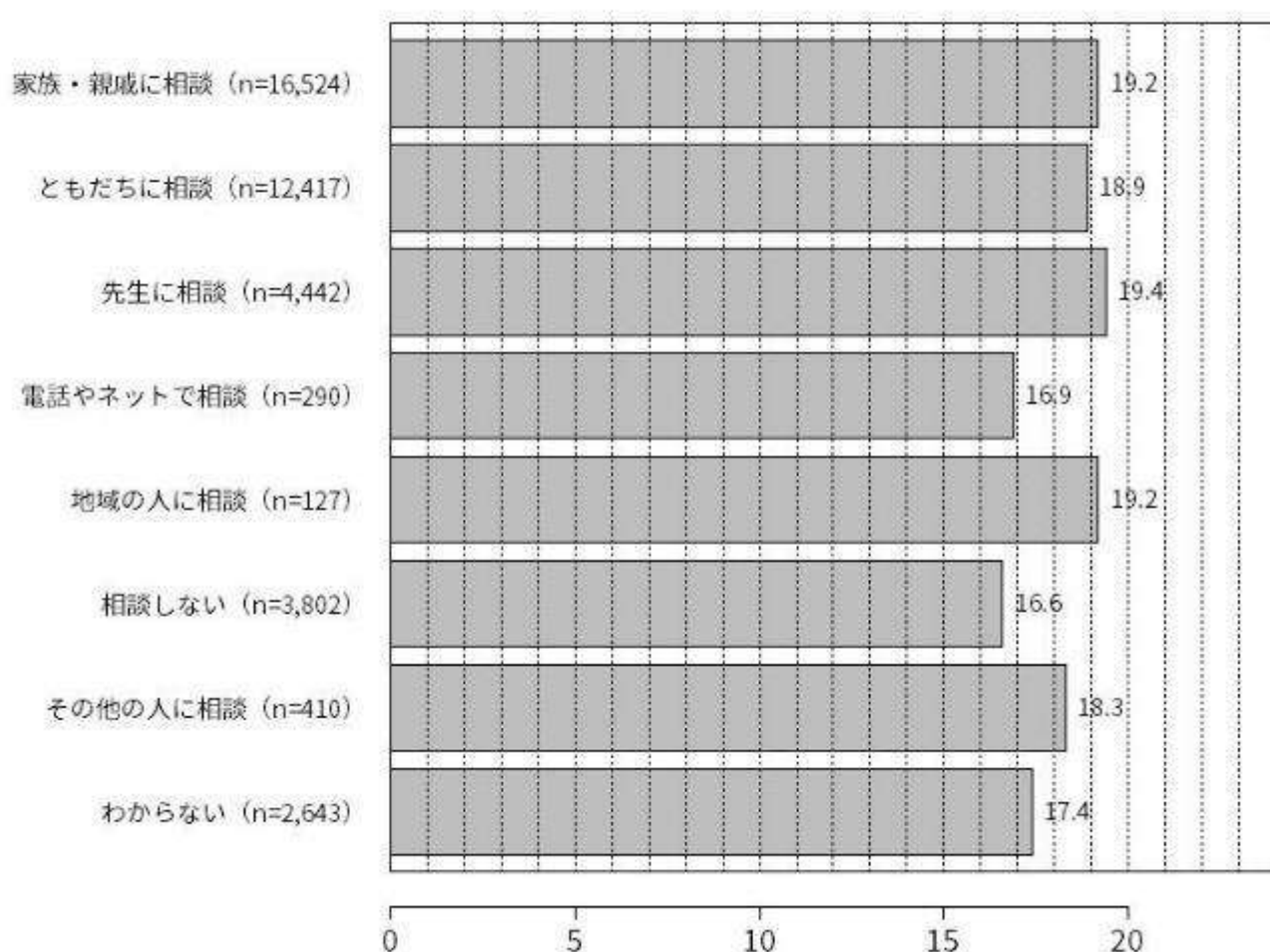
「スクールカウンセラー」「塾や習いごとの先生」「学童保育、児童いきいき放課後事業の先生」のうち1つ以上に回答した人

電話やネットで相談する群：「子ども専用の電話相談」「インターネットやサイトを通じて知り合った直接会ったことのない人」のうち1つ以上に回答した人

地域の人に相談する群：「近所の人」「地域の支援団体」のうち1つ以上に回答した人

相談しない群：「だれにも相談できない」「だれにも相談したくない」のうち1つ以上に回答した人

<大阪市 24 区>



<大阪市西区>

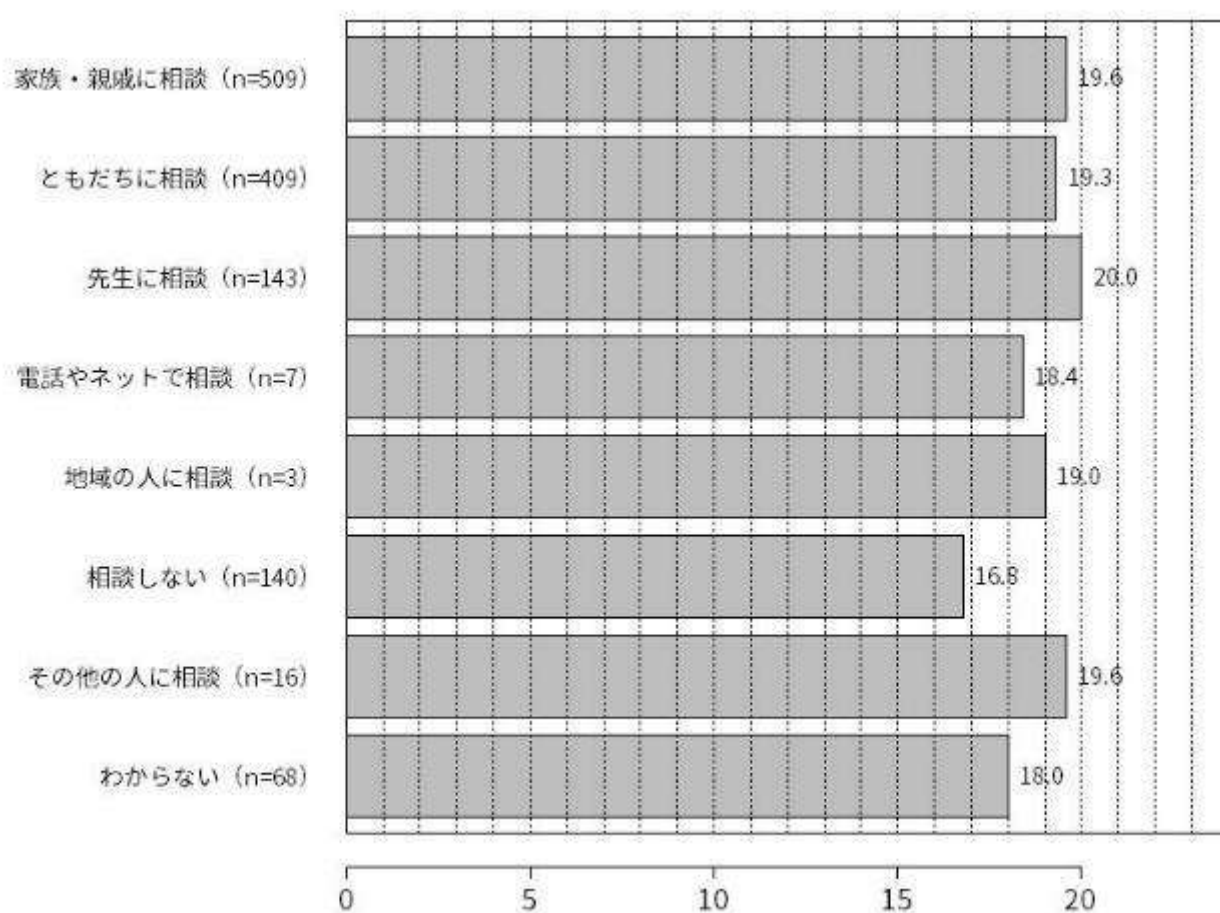


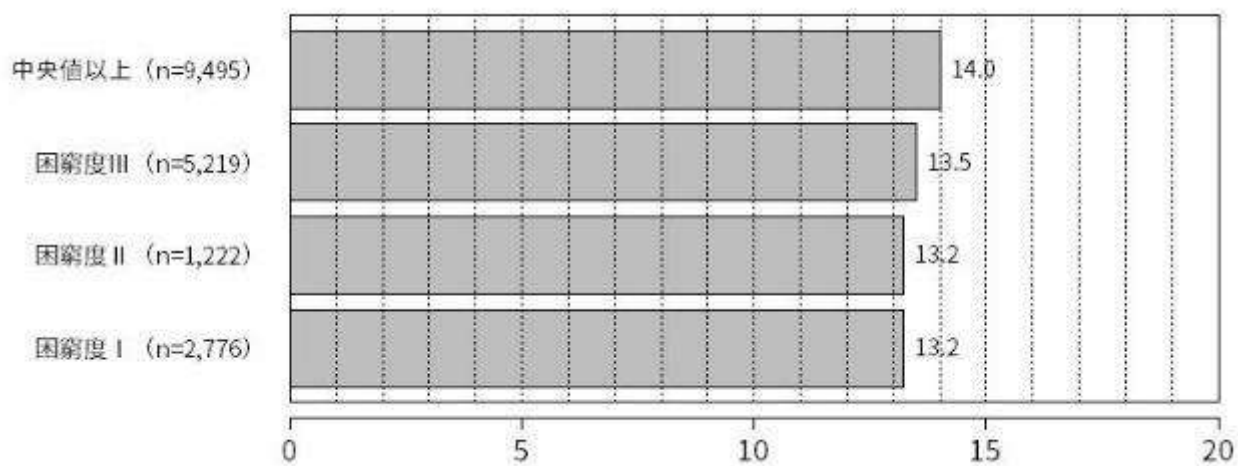
図 294. 困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）によって子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、低い順に「相談しない」16.8点、「わからない」18.0点、「電話やネットで相談」18.4点であった。

困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー（保護者票 問 29①～⑤）

※保護者のセルフ・エフィカシーについては図 197 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市西区>

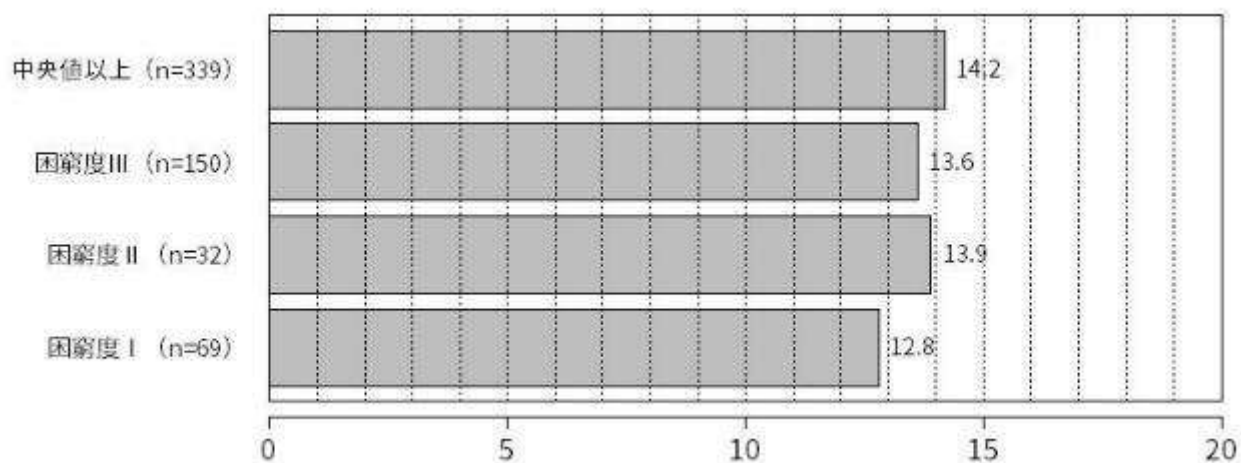


図 295. 困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、中央値以上群で 14.2 点、困窮度Ⅰ群で 12.8 点であった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(家の手伝いをするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10④)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市西区>

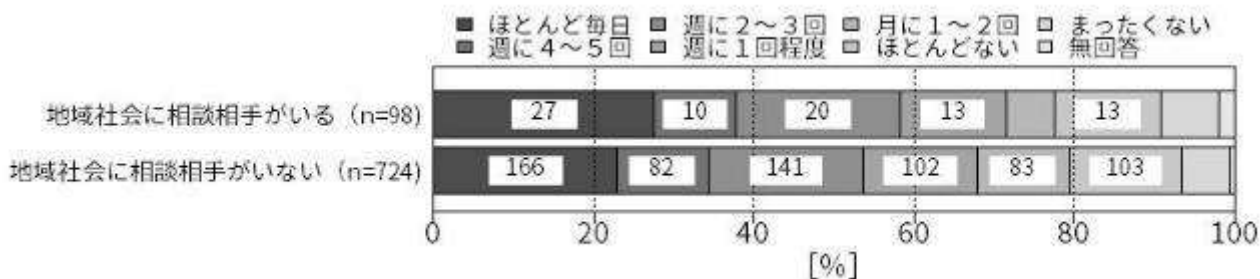


図 296. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(家の手伝いをするか)

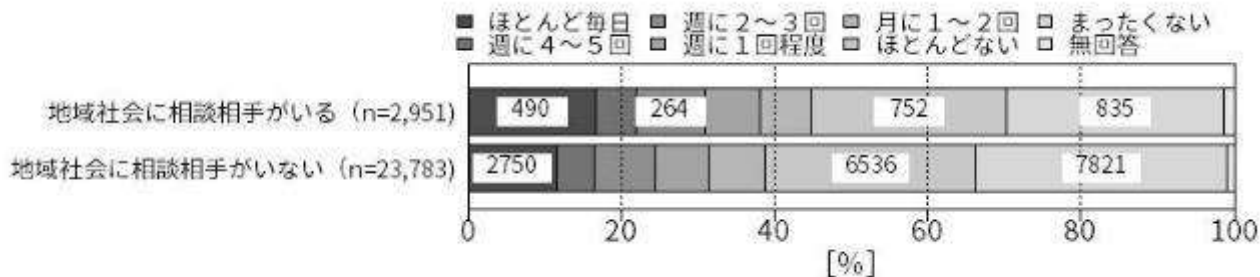
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（家の手伝いをするか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「おうちの手伝いをするか」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高い傾向にあった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人に宿題をみてもらうか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑤)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市西区>

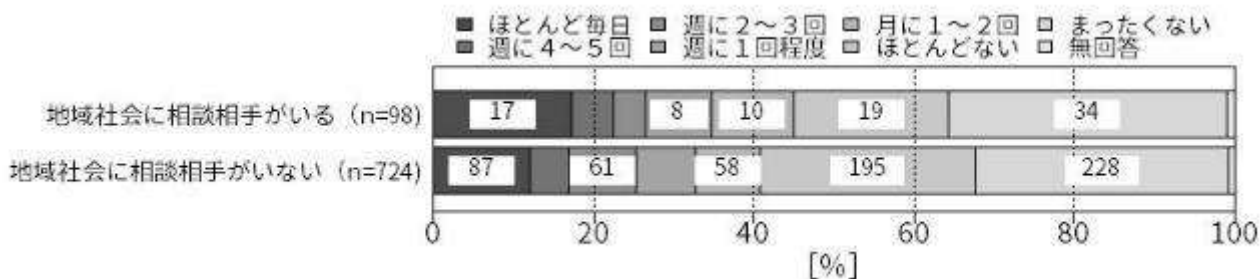


図 297. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人に宿題をみてもらうか)

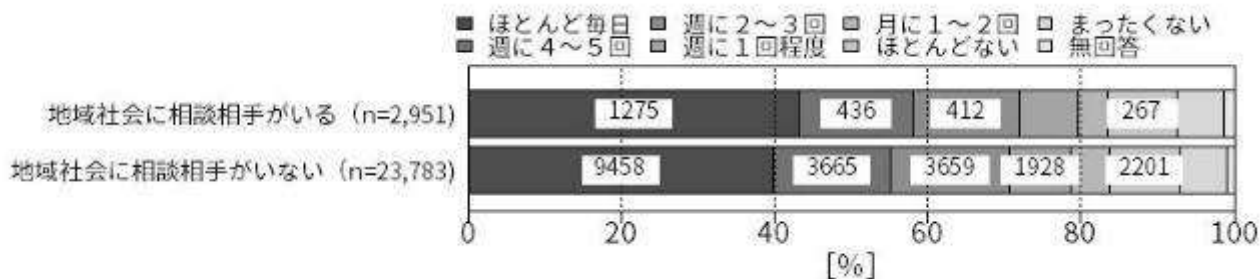
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっている」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高い傾向にあった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と学校の話をするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑥)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市西区>

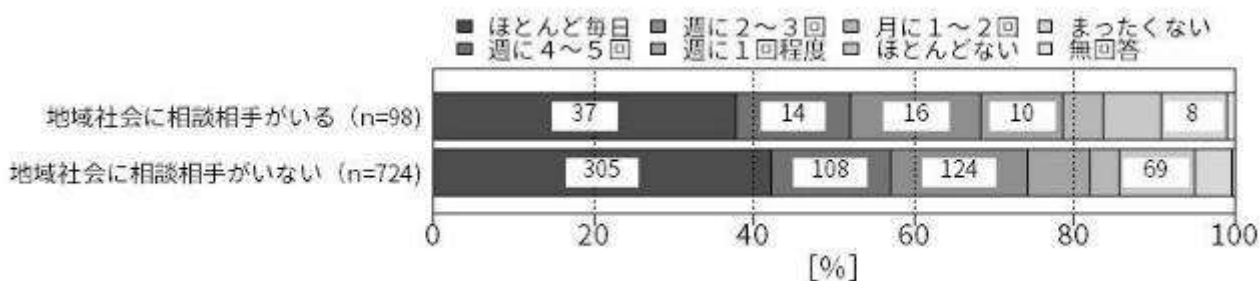


図 298. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と学校の話をするか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）を見ると、「地域社会に相談相手がない」人の方が、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、「おうちの大人の人と学校のできごとについて話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高い傾向にあった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑦)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市西区>

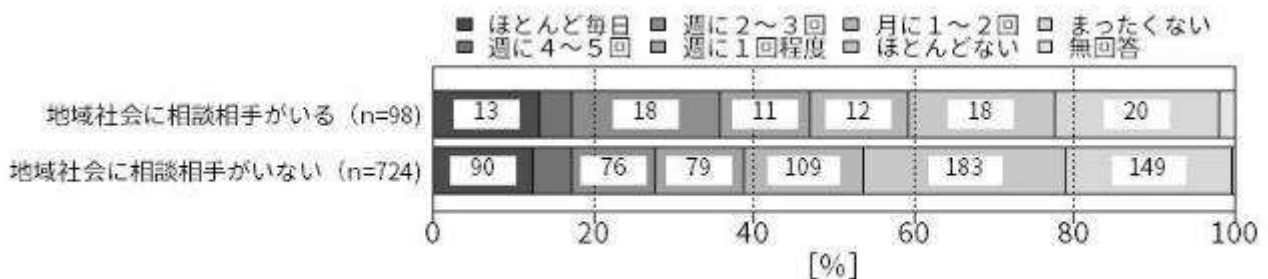


図 299. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」か「地域社会に相談相手がない」かによって、子どもが「おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりする」に差はなかった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と社会のできごとを話すか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑧)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市西区>

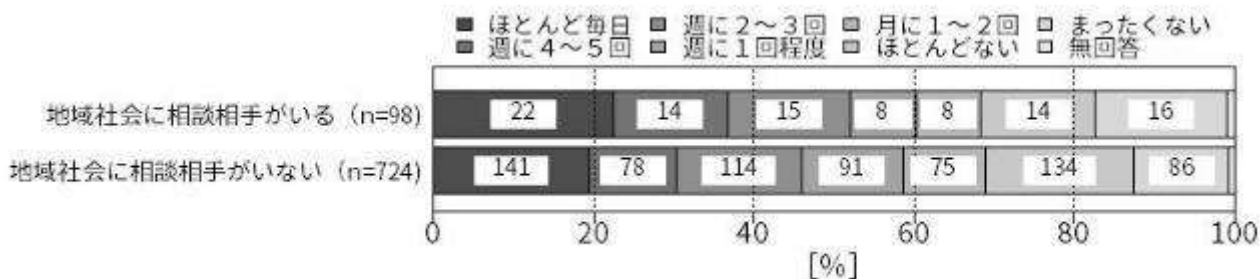


図 300. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と社会のできごとを話すか)

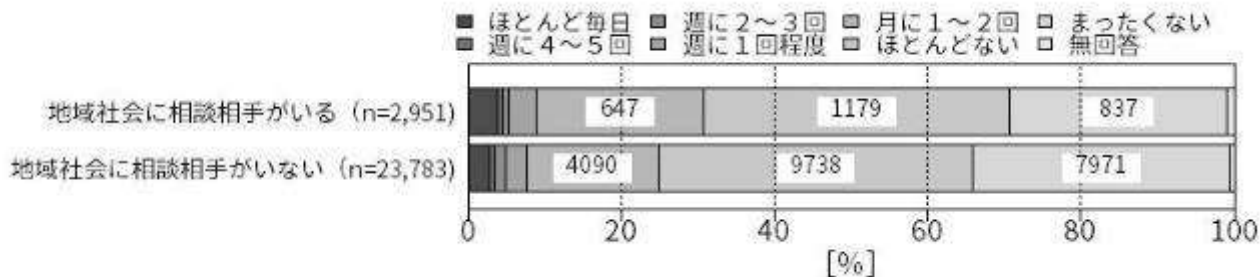
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「ニュースなど社会のできごとを話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高い傾向にあった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と文化活動をするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑨)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市西区>

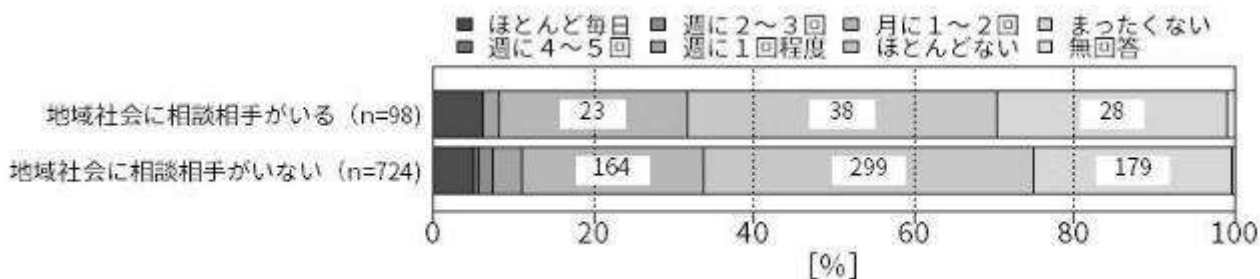


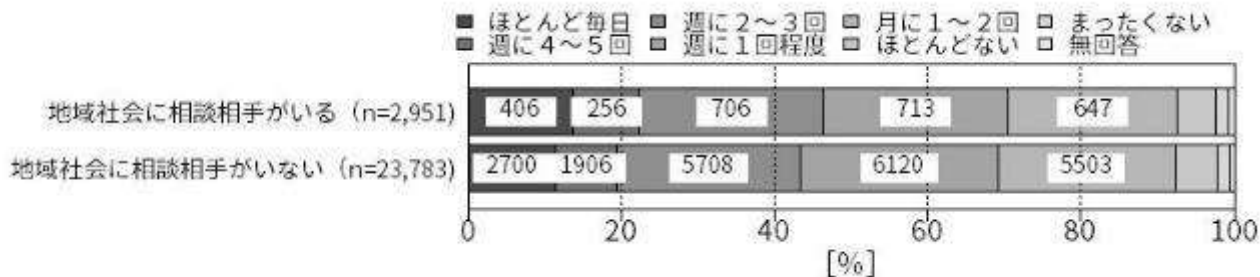
図 301. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と文化活動をするか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人と文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をする」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高い傾向にあった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と一緒に外出するか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑩)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市西区>

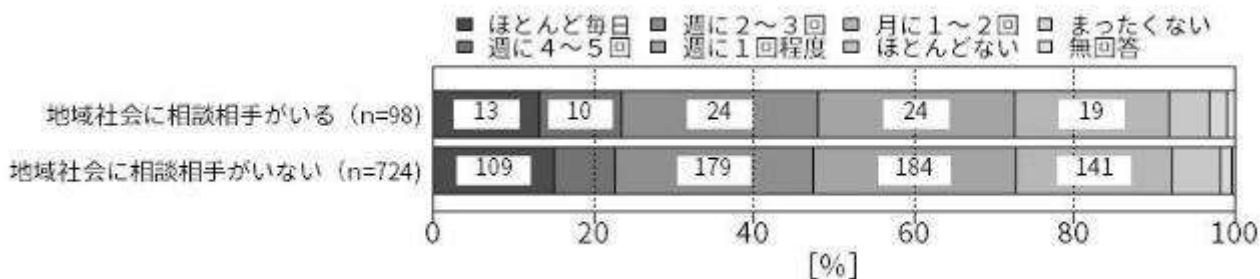


図 302. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
 (おうちの大人と一緒に外出するか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」か「地域社会に相談相手がない」かによって、子どもが地域社会に相談相手がいるかいないかによって「おうちの大人の人と一緒に外出する」に差はなかった。

＜対人関係に関する考察＞

子ども・保護者の社会的な対人関係について、困窮度や世帯構成などの視点から結果を述べる。子どもが放課後に過ごす場所に関し、困窮度が高まるにつれて「習い事」「塾」の割合が減少した。一方「おばあちゃん・おじいちゃんの家」「友達の家」の割合が増加した。「図書館や公民館など公共の施設」の割合が困窮度Ⅰ群において高かった。

続いて子どもが誰と放課後を過ごすかを見てみると、困窮度の高まりに沿って「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」「学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）」と回答する子どもの割合が低くなる傾向にあった。困窮により習い事の月謝の工面ができていないものと想定している。「ひとりでいる」と答えた割合は16.7%～25.2%だったが、一方、自分の子どもが放課後ひとりで過ごしていると考えている保護者は困窮度を問わず2.4%～7.9%であった。すなわち放課後の過ごし方で保護者の認識と実態とがかい離している状況が確認された。

悩んでいることを困窮度の視点から見ると、困窮度が高まるにつれて「おうちのこと」（中央値以上群8.2%、困窮度Ⅰ群12.2%）、「学校や勉強のこと」（中央値以上群22.8%、困窮度Ⅰ群28.9%）とその割合が高まる傾向にあった。そしてそのいやなこと・悩んでいることを相談する相手として、困窮度が高まるにつれて「親」と回答する割合が減少し（中央値以上群58.9%、困窮度Ⅰ群50.0%）、「わからない」と回答する割合が増加した（中央値以上群5.3%、困窮度Ⅰ群12.2%）。また「だれにも相談したくない」と回答する割合は困窮度が高まるにつれて減少する傾向にあったが、いずれの群において14%前後存在した。また「だれにも相談できない」の回答は困窮度Ⅱ群、Ⅰ群で高かった。困窮度を問わず嫌な事や悩みを抱えたまま生活することを強いて、精神的な衛生状態に影響を与えていることが推測される。

保護者の相談相手や相談先においては、困窮度が高まるにつれて「配偶者・パートナー」「配偶者・パートナーの親」「職場関係者」と回答する割合が減少し、「相談できる相手がいない」と回答する割合が増加した（中央値以上群では1.4%、困窮度Ⅰ群では5.4%）。

また世帯種別に関して、「困ったときの相談相手がいない」と回答する割合は、母子世帯では6.1%と大阪府内全自治体のそれぞれの数値よりも高いものであった。それぞれの世帯は生活圏・生活環境が異なるため、それぞれに適した支援を行っていく必要があると推測される。

地域社会に相談相手の有無で見てみたところ、相談相手がいる群の方が、いない群に比べて、子どもが家の手伝いをする、おうちの大人に宿題を見てもらう、おうちの大人と社会のできごとを話すといった保護者と子どもの関わりが強まることも確認できた。

B. 5歳児保護者調査報告書

1. 回答者の属性

5歳児-1 続柄

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

大阪市西区では、「お母さん」が80.7%、「お父さん」が5.6%、「おばあさん・おじいさん」が該当なし、「おじ、おばなど親戚」が該当なし、「施設職員・ファミリーホーム・里親」が該当なし、「その他の人」が該当なし、「無回答」が13.7%であった。

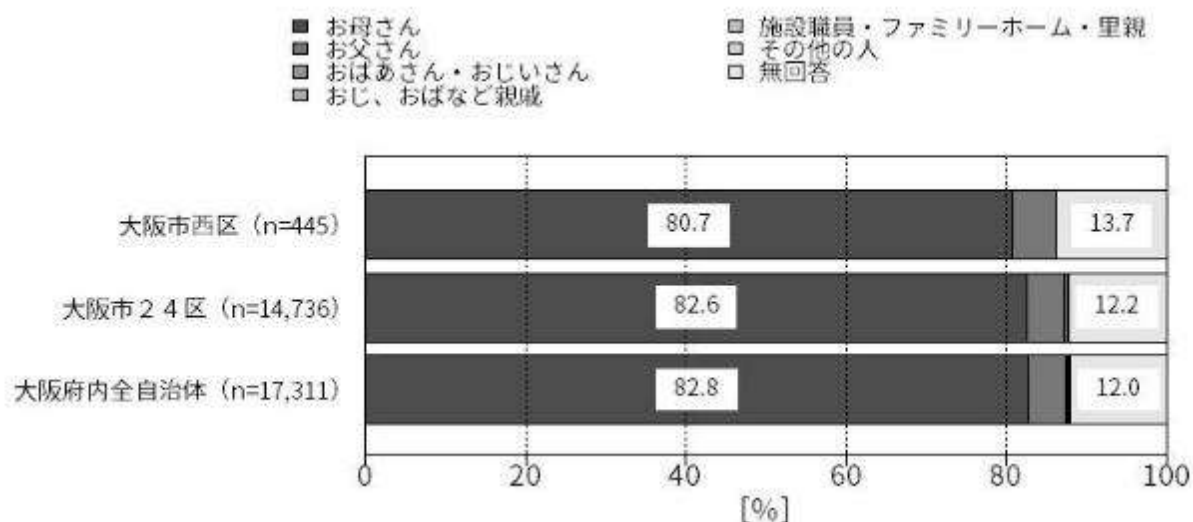


図 1. 回答者の続柄

2. 単純集計

(1) 経済状況

5歳児-41-4 世帯収入額

(4) 前年(2015年)のあなたの世帯の収入の合計額は、およそいくらでしたか。
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

大阪市西区では、「400～450万円未満」が7.0%、「550～600万円未満」が6.7%、「350～400万円未満」が6.1%、「450～500万円未満」が5.4%の順に高くなっている。(グラフは大阪市24区・大阪府内全体のもののみ)

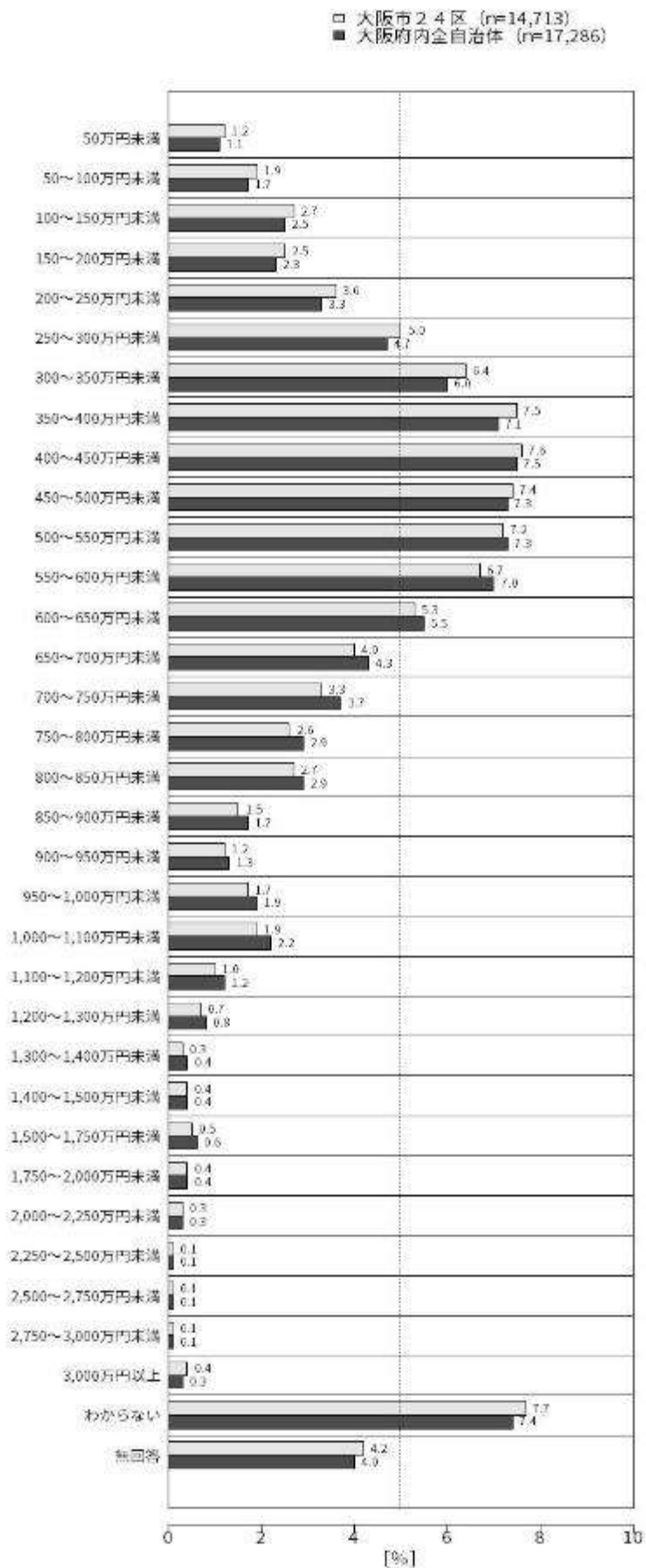


図 2. 世帯収入額

等価可処分所得に基づく困窮度の分類

表 1. 大阪市5歳児保護者困窮度別人数

困窮度分類	人数	%
中央値以上	6657	52.5
困窮度Ⅲ	3749	29.6
困窮度Ⅱ	774	6.1
困窮度Ⅰ	1500	11.8
合計	12680	100.0